臺灣總督府

農業試驗所彙報

第二百十三號

臺灣植物病害文獻集 (1)

臺灣總督府農業試驗所

昭和十八年五月

學術の研究に於ては從來如何なる文獻があるかを知る事は必要不可缺の事であるが、研究者は關係文獻の蒐集に多大の勞力を費すのが常である。本篇は臺灣に關係ある植物病害に關する文獻を涉獵して簡單な解說を附けたもので、上梓して植物病害に關與する者の參考に供する。

昭和十八年五月

臺灣總督府農業試驗所長

農學博士　磯　永吉

臺灣總督府農業試驗所彙報　第二百十三號

臺灣植物病害文獻集 (I)

目　次

凡 例

I. 植物病害一般……1
II. 食用作物の病害……3
1. 稻……3
2. 其 他……7
III. 特用作物の病害……7
1. 甘 蔗……7
2. 纖維料作物……13
3. 油料作物……14
4. 嗜好料作物……14
5. 藥料作物……17
IV. 果樹及び果實の病害……17
1. 柑 橘……17
2. バナナ……21
3. 鳳 梨……21
4. 其 他……22
V. 蔬菜の病害……23
VI. 花卉の病害……24
VII. 樹木の病害……25
VIII. 其他の病害……27
IX. 菌 類……27
X. 細菌及びバクテリオファーヂュ……36
XI. ヴィールス……37
XII. 藥 劑……38
XIII. 其 他……39
著者名索引……40

凡　例

1. 本文獻集に蒐集せる文獻は植物病害、植物病原及び病害防除用藥劑に關する出版物にして、臺灣に於て出版せられたるもの、臺灣在住者の執筆せるもの、臺灣に於て行はれたる研究の業績及び其他臺灣に關係あるものである。

2. 抄錄及び各農事試驗機關刊行の業務功程、年報及び之に類するものは省略した。

3. 本編に於ては昭和17年末までに出版された文獻を收錄したるも、收錄洩れのものは向後出版さるべき文獻と共に次回に於て收錄する事とする。

4. 文獻の配列は病害に關するものは作物の分類に依り、病原に關するものはその分類に從つた。又病害に關する總說或は內容が各部門に亙るものは病害一般の部に收めた。

5. 分類配列に際しては原則として最も重要なる部門1箇所に揭載し、各部門に於ける配列は年代順に依つた。

6. 刊行物名、卷(年)、號、頁、發行年等の記載は下の例に依つた。

病蟲雜 27, 2 : 161—166, 昭15(1940)

臺農試特報 4 : 140頁, 明45(1912)

卷の頁數と號の頁數と兩者が記載されてゐる場合は卷の頁數を揭げた。

7. 刊行物名の略稱は次の如くである。

略稱	本稱
病蟲雜	病蟲害雜誌
熱農會誌	熱帶農學會誌
日學協會報	日本學術協會報
農及園	農業及園藝
札幌博會報	札幌博物學會報
新竹農試時報	新竹州立農事試驗場時報
植病會報	日本植物病理學會報
植研雜誌	植物研究雜誌
植及動	植物及動物
植　雜	植物學雜誌
臺博會報	臺灣博物學會報
臺農事報	臺灣農事報
臺農會報	臺灣農會報
臺農林會報	臺北農林學會報
臺農專報告	臺北帝國大學農林專門部學藝報告
臺農試報告	臺灣總督府農業試驗所報告
臺農試彙報	臺灣總督府農業試驗所彙報

略稱	本稱
臺農試出版	臺灣總督府農事試驗場出版
臺農試特報	臺灣總督府農事試驗場特別報告
臺農友會報	臺灣農友會報
臺林會報	臺灣山林會報
臺臨糖出版	臺灣總督府臨時糖務局出版
臺山林	臺灣の山林
臺蔗研會報	臺灣蔗作研究會報
臺殖出版	臺灣總督府殖產局出版
臺殖農出版	臺灣總督府殖產局農務課出版
臺糖試報告	臺灣總督府糖業試驗所報告
臺糖試特報	臺灣總督府糖業試驗場特別報告
臺中研農報告	臺灣總督府中央研究所農業部報告
臺中研農彙報	臺灣總督府中央研究所農業部彙報

臺灣植物病害文献集 (I)

技師　德　永　芳　雄

技手　隈　元　吉　照

I. 植物病害一般

臺灣農作物病害目錄　鈴木力治, 川上瀧彌　臺農試出版　32 : 61頁, 明41(1908)

穀類、蔬菜、特用作物、果樹、森林植物、牧草及び綠肥作物の病害目錄。

中北部臺灣農作物病害調査　鈴木力治　臺農事報　16 : 35—37;　19 : 24—27;　20 : 28—32, 明41(1908); 28 : 22—27, 明42(1909)

稻葉枯病及び稻苗燒病 (*Helminthosporium Oryzae* MIYABE et HORI)、稻熱病 (*Dactylaria parasitans* CAVARA)、稻麹病 (*Ustilaginoidea virens* (COOKE) TAKAHASHI)、稻籾枯病 (*Phoma glumarum* ELL. et TRACY)、稻籾赤黴病 (*Fusarium heterosporum* NEES.)、稻葉尖稻熱病 (*Phyllosticta Oryzae* S. HORI)、梨斑點病 (*Septoria piricola* DESM.)、桃銹病 (*Puccinia Pruni-spinosae* PERS.)、桃粉病 (*Sphaerotheca pannosa* (WALLR.) LÉV.)、棗銹病 (*Uredo Zizyphi vulgaris* HENN.)、葡萄汚斑病 (*Isariopsis clavispora* (B. et C.) SACC.)、大麥裸黑穗病 (*Ustilago nuda* (JENSEN) KELL. et SW.)、大麥堅黑穗病 (*Ustilago Hordei* (PERS.) KELL. et SW.)に就きて記載す。

近時植物病害論　鈴木力治　臺農事報　49 : 1—6, 明43(1910)

植物病理學研究の發達經過、豫防法、殊に熱帶植物病害の研究の發達を略記す。

臺灣の植物病害に關する調査　川上瀧彌　臺農試特報　2 : 109—129, 明44(1911)

茭白筍の食用黑穗菌に就き、菌の形態、利用及茭白筍栽培法等を記載す。

臺灣の植物病害に關する調査　澤田兼吉　臺農試特報　2 : 1, 108頁　明44(1911)

瓜類白絹病、里芋疫病 (*Kawakamia Colocaciae* (RAC.) SAWADA)、樟膏藥病、相思樹膏藥病 (*Septobasidium Acaciae* SAWADA sp. nov.) 等に關する調査試驗成績を登載す。

植物病害の一般及び之が豫防驅除法に就て　藤黑與三郎　臺農事報　6, 67 : 22—26, 明45 (1912)

各種農作物疾病の被害、原因、誘因、防除に就き略述す。

本島農作物の病害　澤田兼吉　臺農事報 6, 63 : 9—17; 64 : 15—19, 明45(1912)

稻の病害—苗腐敗病 (*Achlya prolifera* (NEES.) de BARY)、稻麹病 (*Ustilaginoidea virens* (COOKE) TAKAHASHI)、白絹病 (*Hypochnus centrifugus* (LÉV.) TUL.)、大粒白絹病 (*Hypochnus Sasakii* SHIRAI)、陸稻褐斑病 (*Pestalozzia Kawakamii* SAWADA)、稻熱病 (*Dactylaria grisea*

Shirai)、葉枯病 (*Helminthosporium Oryzae* Miyabe et Hori)、馬鹿苗病 (*Fusarium heterosporum* Nees.)、菌核病 (*Sclerotium Oryzae* Catt.)、胡麻葉病 (*Ectostroma Oryzae* Sawada sp. nov.)、粟の病害—白髮病 (*Sclerospora graminicola* (Sacc.) Schröt.)、黑穗病 (*Ustilago crameri* Korn.)、赤澁病 (*Uromyces Setariae-italicae* (Diet.) Yoshino)、灰色白絹病 (*Hypochnus Setariae* Sawada)、葉枯病 (*Helminthosporium Setariae* Sawada)、いもち病 (*Dactylaria grisea* Shirai) に就いて病徵、病原菌形態、豫防法を記述せり。

臺灣に於ける作物白絹病 澤田兼吉 植雜 **26**, 305 : 125—138; 306 : 177—193, 明45(1912)

瓜類白絹病、樟大粒白絹病、樟小粒白絹病に就き病徵、病原菌、驅除豫防法、寄主植物等を紹介す。

臺灣の植物病害に關する調査 澤田兼吉 臺農試特報 4 : 140頁, 明45(1912)

樟白絹病 (*Hypochnus Cinnamoni* Sawada)、甘藷菌核病 (*Sclerotinia Libertiana* Fuck.) の調査に關する成績を登載す。

臺灣總督府農事試驗場內に於ける主要農作物病害發生時期調査 藤黑與三郎 臺農事報 **8**, 8 : 30—41, 大3(1914)

當試驗場に於て明治40年以降調査せる普通作物、特用作物、蔬菜、果樹、牧草、綠肥作物等の疾病226種に就き、1年間の發生時期を表示す。

作物病害豫防驅除法 藤黑與三郎 臺農試出版 : 156頁, 大4(1915)

各作物病害の豫防驅除法に就き記載せり。

本島作物病害に對する智識の進步 澤田兼吉 臺農事報 **9**, 3 : 184—187, 大4(1915)

明治37年1月以降大正3年12月に至る間の臺灣に於ける植物病害研究の發達經過を述べ、其間の著作を紹介表示す。

臺灣病蟲害驅除要覽 臺灣總督府農務課 臺殖出版 80 : 大4(1915)

稻、甘蔗、柑橘の主要病害蟲の檢索表及び驅除豫防劑の處法を表示す。

臺北市場に於ける農產物病害調査 藤黑與三郎 臺農事報 **11**, 5 : 348—360; 臺農試出版 118 : 24頁, 大6(1917)

臺北市場に於ける月別農產物の調査を行ひ、之に生ずる輸移入及び本島產病害の發生時期、期間を表示す。

作物病害編 三宅勉, 澤田兼吉 臺殖出版 448 : 89頁, 大14(1925)

柑橘(澤田)及び甘蔗(三宅)の病害講習要項にして、病害の解說及び防除法を記述す。

血清反應に依る植物病害の診斷に就て 松本巍 熱農會誌 **1**, 1 : 14—22, 昭4(1929)

豫め病原菌に依つて免疫せられた兎の血清を抗體の資料とし、之に對して病植物の壓搾液を免疫原 Antigen として反應せしめる時は、病害の種類に依つて可成明瞭に診斷をなすことが出來るので、この問題に關する 2, 3 の實驗結果を紹介す。

Early diagnosis of plant diseases. MATSUMOTO, T. (松本巍) 臺博會報 22, 123: 406—407, 昭 7 (1932)

植物疾病の早期診斷の重要性を論す。

Bacterial diseases of plants occurring in Formosa. I. OKABE, N. (岡部德夫) 熱農會誌 4, 4: 470—483, 昭 7 (1932)

大豆發疹性細菌病、莄麻細菌性斑點病、柑橘潰瘍病、蘿蔔細菌性黑點病、棉角斑病、十字科植物の黑腐病等に就て記述す。

Bacterial diseases of plants occurring in Formosa. II-III. OKABE, N. (岡部德夫) 熱農會誌 5, 1: 26—36; 2: 157—166, 昭 8 (1933)

蕃茄細菌性斑葉病 (*Bacterium Tomato* sp. nov.)、甘蔗細菌性赤條病、黃麻細菌性斑點病、大豆細菌性斑點病、桑縮葉性細菌病等に就て記述す。

Bacterial diseases of plants occurring in Formosa. IV. OKABE, N. (岡部德夫) 熱農會誌 6, 1: 54—63, 昭 9 (1934)

粟褐條病 (*Bacterium Setariae* n. sp.) に就て記述す。

Bacterial diseases of plants occurring in Taiwan (Formosa). V-VI. OKABE, N. (岡部德夫) 熱農會誌 7, 1: 57—66; 3: 219—227, 昭10(1935)

キクヂシヤ細菌性葉枯病 (*Bacterium formosanum* n. sp.)、蜀黍及びハハキモロコシの細菌性赤條病、葱及びニラネギの軟化腐敗病等に就て記述す。

植物の粉病に對する免疫 橋岡良夫 科學 6, 11: 458—459, 昭11(1936)

粉病菌の感受性植物、抵抗性植物、免疫性植物等に就き述ぶ。

植物疾病の血清學的研究 松本巍 植及動 8, 1: 199—204, 昭15(1940)

植物病原細菌、植物病原菌類及び、ヴィールス病の血清學的研究に就き述ぶ。

熱帶に於ける植物疾病の特性 I. 病原菌生活史の變化と疾病發現樣相 橋岡良夫 植及動 10, 9: 848—850, 昭17(1942)

熱帶に於ける病原菌の越年、寄生輪廻、越年器官の消滅等に就き臺灣に於ける實例により考察す。

II. 食用作物の病害

1. 稻

稻の葉枯病 (Helminthosporiun Oryzae Miyabe et Hori) 鈴木力治 臺農友會報 11: 32—36, 明40(1907)

明治40年に臺灣に大發生せる本病の病徵、誘因、病原菌學名、所屬、菌絲、胞子梗、胞子形態及び豫防法を記し檢索表を附す。

陸稻立枯病 澤田兼吉 臺農事報 61 : 15—17, 明44(1911)

陸稻立枯病 (*Marasmius plicatus* WAKF.) に就て寄主植物、病原菌、豫防驅除法を記述す。

稻苗腐敗病調査 澤田兼吉 臺農試特報 3 : 84頁, 明45(1912)

稻苗腐敗病 (*Achlya prolifera* (NEES.) de BARY) に對する生理、形態、習性及び驅除豫防法につき詳細に記述す。

稻馬鹿苗病に就て 藤黑與三郎 臺農事報 10, 12 : 5—12; 臺農試出版 110 : 15頁, 大5(1916)

稻馬鹿苗病に就て本島に於ける被害調査を行ひ、本病に對する農民の觀念、方言、1 期作及び 2 期作の被害、陸稻、看天田の被害、降雨と發病、品種と發病、選種法と發病、浸種日數と發病、其他の耕作方法と發病、苗代の灌漑と發病等に就て記述し、被害莖の處置を述ぶ。

稻いもち病菌論 澤田兼吉 臺農試特報 16 : 78頁, 大6 (1917)

稻いもち病の沿革、臺灣に於ける寄主植物、人工培養及び接種試驗に就き論究す。

稻馬鹿苗病の豫防に就て(豫報) 澤田兼吉, 黑澤英一 臺中研農彙報 21 : 19頁, 大13 (1924)

稻馬鹿苗病 (*Lisea Fujikuroi* SAWADA) の病徵、病原菌の接種試驗、形態、生理、及び苗代時代、本田時代の豫防法につき記載す。

稻葉枯病菌菌絲の耐久力 末田平七 臺博會報 14, 74 : 90, 大13(1924)

稻胡麻葉枯病菌の野外に於ける生存力を記す。

稻馬鹿苗病菌の分泌物に關する實驗的研究(豫報) 黑澤英一 臺博會報 16, 87 : 213—227, 大15(1926)

稻馬鹿苗病菌の培養濾液の各種植物に對する反應、菌系統及び類似菌の濾液の作用の差、稻の抵抗性に關する試驗結果等を誌す。

稻イモチ病に關する講話 澤田兼吉 臺中研農彙報 45 : 86頁, 大15(1926)

稻イモチ病に關する全般的のことを記述し之が防除法に對し論及す。

籾種の石炭酸液による着色に就て 黑澤英一 臺博會報 17, 91 : 243—253, 昭2 (1927)

石炭酸溶液により稻籾の着色と稻馬鹿苗病抵抗性品種との關係、本島種の着色關係等を實驗し記述す。

穗頸イモチによる減收率 澤田兼吉 臺中研農彙報 55 : 28頁, 昭2 (1927)

臺灣種及び内地種水稻 9 種を用ひ穗頸稻熱病による減收を粗籾、粗粃、粗玄米等に就て健病兩收量を比較表示す。

水稻の剪葉による減收 澤田兼吉, 黑澤英一 臺中研農彙報 47 : 23頁, 昭2 (1927)

稻の葉を生育中に種々なる程度に剪去して枯損又は喰害に擬し、其剪除割合による減收を知り、夫による概算損失額と防除費との關係を明かにしたるものなり。

稻馬鹿苗病抵抗性品種の選擇 澤田兼吉, 黑澤英一 臺中研農彙報 50 : 40頁, 昭2 (1927)

臺灣第 2 期作品種及び支那種中より馬鹿苗病抵抗性品種を選擇せり。

臺灣に於ける第一期作栽培水稲より稲イモチ病抵抗性品種の選擇　澤田兼吉，黒澤英一，末田平七　臺中研農彙報 49：82頁，昭 2 (1927)

臺灣各地に於ける水稲 1 期作品種中の稲イモチ病抵抗性品種の選擇をなせり。

稲馬鹿苗病の病徴及病原菌に就て　黒澤英一　臺博會報 **18**，97：230—247，昭 3 (1928)

稲馬鹿苗病の沿革、病徴、病原菌の形態等に就て記載せり。

稲馬鹿苗病々原菌の分離竝接種試驗に就て　黒澤英一　臺博會報 **18**，99：380—401，昭 3 (1928)

稲馬鹿苗病菌の分離、接種試驗の結果を記す。

稲いもち病菌に關する研究　末田平七　臺中研農報告 36：130頁，昭 3 (1928)

稲熱病菌に就て病徴、菌の形態、生理、生態、驅除豫防に就て數十項目に亙り甚大なる實驗結果を纒め報告せり。

稲馬鹿苗病菌の植物煎汁培養基に於ける培養的性質竝に發育温度に就て　黒澤英一　臺博會報 **19**，101：150—179，昭 4 (1929)

稲馬鹿苗病菌の各種培養基上の諸性質、發育温度を示す。

稲馬鹿苗病菌竝に類似菌の培養浸出液に對する稲苗の徒長現象に就て　黒澤英一　臺博會報 **20**，109：218—239，昭 5 (1930)

稲馬鹿苗病菌の生理的系統、各種培養浸出液の稲に對する徒長現象、類似菌による徒長現象に就ての實驗結果を記せり。

稲馬鹿苗病菌の培養濾液に對する稲苗の徒長現象に於ける温度竝に培養基の影響　黒澤英一　臺博會報 **21**，114：159—181，昭 6 (1931)

稲馬鹿苗病菌の植物煎汁培養基及び合成培養基に於ける濾液が、稲苗に及ぼす徒長現象を實驗し、温度との關係を實驗せり。

稲馬鹿苗病菌の培養濾液に對する稲の徒長現象に關する二三實驗結果に就て　黒澤英一　臺博會報 **22**，120：198—201，昭 7 (1932)

稲馬鹿苗病菌の培養濾液の徒長作用を略述す。

稲イモチ病の話　新竹州立農事試驗場　新竹農試時報 2：昭 8 (1933)

病徴、病害の原因、誘因、防除法に就き略述す。

稲馬鹿苗病の罹病苗移植の結果に就て　黒澤英一　植病會報 **4**，1・2：33—34，昭 9 (1934)

水稲馬鹿苗病の罹病苗を本田に移植し、移植當時の枯死、移植後の罹病、移植後の恢復等の觀察を記述す。

稲馬鹿苗病菌竝に類似菌に關する稲の徒長及完全胞子に就て（講演要旨）　黒澤英一　植病會報 **3**，1：68—70，昭 9 (1934)

施肥量を異にせる水稲の子實と稲イモチ病との關係竝に其子實による稲苗に就て　澤田兼吉

臺農事報 31, 6 : 550—556, 昭10(1935)
施肥量の異る場合の水稻子實の稻熱病罹病率及び同種子による苗の生育に就て報告す。
過石灰ボルドー液による出穗中の稻イモチ病豫防 澤田兼吉 臺農事報 31, 4 : 342—348, 昭10(1935)
過石灰ボルドウ液の稻熱病に對する豫防效果試驗の成績を登載す。
化學物質施用による稻イモチ病の發生防止 澤田兼吉 臺農事報 31, 9 : 799—805, 昭10(1935)
各種物質及び藥劑（促肥素、饒土液、水硝子、生石灰ボルドウ液）等の水田灌注が稻熱病防除に及ぼす效果に就ての試驗成績。
臺灣に於ける稻イモチ病の翌年蔓延の豫察竝に其の措置 澤田兼吉 臺農事報 31, 11 : 1058—1068, 昭10(1935)
稻熱病菌の性質、蔓延の原因、累年發生比較、蔓延の氣象、蔓延の豫報と其對策に就て述ぶ。
稻熱病と肥料 澤田兼吉 臺農事報 32, 7 : 484—494, 昭11(1936)
稻熱病と施肥量との關係に就て實驗結果を述ぶ。
臺灣產稻の菌核性病害に就て 小川正行 臺農事報 33, 8 : 622—637, 昭12(1937)
臺灣產稻の菌核性疾病（小黑菌核病 *Helminthosporium sigmoideum* Cav. var. *irregulare* Crally, 小球菌核病 *Leptosphaeria salvinii* Catt., 球形菌核病 *Sclerotium sphaeroides* Nakata, 灰色菌核病 *Sclerotium fumigatum* Nakata）に就て記し、相互の比較をなす。
着色米に就て 森山鞆次郎 臺農事報 34, 7 : 329—340, 昭13(1938)
內地及び朝鮮に於ける着色米、臺灣に於ける着色米、ヤケ米の理化學的特性、着色米の豫防法に就き述ぶ。
稻熱病の防除に就て 伊藤誠哉 臺農會報 1, 11 : 2—24, 昭14(1939)
食糧の安定と稻熱病、稻熱病の歷史、病狀、病原菌の越年及び第1次發生、籾種の消毒、稻藁の處分、防除法の轉換、防除聚落、統制防除等に就き講演せるものを纒めたるものなり。
稻のイモチ病と肥料（II-IX） 澤田兼吉 臺農事報 35, 1 : 22—31; 2 : 111—118; 3 : 182—189; 4 : 251—259; 5 : 383—387; 6 : 444—449; 8 : 655—656, 昭14(1939)
稻熱病と肥料との關係に就て行へる各種實驗成績を述ぶ。
臺灣に發生する稻の萎黃病に就て 黑澤英一 病蟲雜 27, 2 : 161—166, 昭15(1940)
昭和の初め臺灣に發生した稻の萎黃病に關し、病徵を記載し、調査結果を記述す。
稻熱病の本質とその防除 德永芳雄 臺殖農出版 : 27頁, 昭15(1940)
病狀、病原、病原菌の種次、誘因、防除法、稻の病害共通防除、種籾及び稻藁消毒實施要項に就き略述す。
一期作苗代の寒害 特に成因竝に藥劑防除に就て 橋岡良夫 臺農事報 37, 4 : 329—344,

昭16(1941)

被害苗及び苗代土壌中から5種の菌を分離し、接種試験を行ひ又豫防驅除法につき記載す。

水稻馬鹿苗病豫防試驗成績に就て 黑澤英一 臺農會報 3, 2:61—69, 昭16(1941)

內地種水稻を用ひ馬鹿苗の籾種消毒法の試驗結果を記す。

稻菌核病に就て 小川正行 臺殖農出版:12頁, 昭16(1941)

稻菌核病の種類、病徵及び被害狀況、病原及び其の種次、傳播、寄主植物及び分布、品種及び肥料との關係、灌排水との關係、及び防除法に就き略述す。

熱帶に於ける稻熱病 I. 植物病理學的見地よりせる蓬萊稻及臺灣稻葉片表皮の解剖學的比較 橋岡良夫 農及園 17, 7:846—851, 昭17(1942)

稻熱病に對し抵抗性概して弱き蓬萊稻及び抵抗性强き臺灣稻の葉片の解剖學的性質及び顯微化學的性質を比較研究す。

施肥量を異にせる水稻種子による苗の稻熱病に就て 陳其昌 臺農事報 38, 6:458—465, 昭17(1942)

施肥量を異にし育成した籾より生じた稻苗の稻熱病罹病程度を檢討報告す。

臺中州二林地方に於ける稻の稻熱病耐病性品種試驗成績 矢野武, 田川泰輝 熱農會誌 14, 2:87—91, 昭17(1942)

普通肥料及び倍肥料を施して稻熱病抵抗性品種試驗を行つた成績を報告す。

2. 其　　他

甘藷黑斑病 臺灣總督府殖產局農務課 臺殖農出版:9頁, 昭16(1941)

本病に對する概說、病徵及び被害狀況、病原及び其の傳播、被害植物及び分布、防除法等に就き略述す。

Die Vergiftung des Rindes durch verschimmelte Bataten. SHOHO, C. (莊保忠三郎) 臺農試彙報 208:57頁, 昭17(1942)

牛の腐敗甘藷(黑斑病)による中毒に關する研究を報告す。

牛の黑斑病被害甘藷中毒に就て 莊保忠三郎 臺農事報 38, 6:435—457; 7:505—527; 8:625—638; 9:720—742; 10:783—823, 昭17(1942)

黑斑病被害甘藷による牛の中毒例、被害甘藷含有毒物の抽出及び其の毒性に關する研究を記載す。

III. 特用作物の病害

1. 甘　　蔗

甘蔗の寄生顯花作物 川上瀧彌 臺農友會報 11:22—26, 明40(1907)

ナンバンギセル *Aeginetia indica* L. の寄生による甘蔗の被害狀況、豫防上の注意、本寄生

物の名稱、分類學上の位置、分布、形態、生活史、寄生に就て論じ、併せて豫防驅除法を記す。

甘蔗病害論 (I, II) 川上瀧彌　臺臨糖出版：235頁, 20頁, 明40(1907)

世界各地より記載されたる甘蔗の病害に就て詳細に記述す。

甘蔗露菌病調査報告　三宅勉　臺糖試特報 1：61頁, 明43(1910)

本病の病徴、病原 *Sclerospora Sacchari* MIYAKE 及び病原菌の形態、組織內に於ける菌絲の狀態、病名及び病原菌の學名、胞子の發芽、接種試驗、被害莖梢頭苗發病試驗、各品種の被害程度、蔗莖含糖量に及ぼす影響、他作物との關係、傳播の方法、驅除豫防法、及びササラ病に就きて調査研究報告す。

蔗糖分減損につきて　三宅勉　臺農事報 6, 7：575—579, 明45(1912)

臺灣の砂糖中にも細菌の存するものありて貯藏中に糖分減損することあるを報ず。

蔗糖分減損に就て　三宅勉, 小野佐雄, 安川榮　臺糖試特報 2（臺殖出版23）：54頁, 大2(1913)

砂糖貯藏中蔗糖分の變化並にその原因たる細菌に關する硏究を報告す。

甘蔗赤腐病に關する調査報告　三宅勉, 鶴仲壽美, 安川榮　臺糖試特報 4（臺殖出版123）：124頁, 大4(1915)

本病の沿革、病徴、被害組織部の顯微鏡的觀察、病原及び病原菌の狀態、培養試驗、接種試驗、病原菌の名稱（*Colletotrichum falcatum* WENT.)、誘因、被害狀態、製糖との關係、各品種の抵抗力調査、驅除豫防法等に就き硏究報告す。

甘蔗病蟲害驅除豫防法要項　臺灣總督府民政部殖產局　臺殖出版105：13頁, 大4(1915)

「乙、甘蔗病害驅除豫防法」中に一般的驅除豫防法及び各種病害の防除法を述ぶ。

甘蔗病菌殺菌劑に關する調査報告　鶴仲壽美　糖業試驗場彙報 9（臺殖出版151）：167頁, 大6(1917)

甘蔗黑穗病菌、鳳梨病菌、赤腐病菌、露菌病菌に對する各種殺菌劑の效力試驗を行ひ、其の調査結果を報告す。

甘蔗鳳梨病調査報告　三宅勉　臺糖試特報10(臺殖出版232)：70頁, 大7(1918)

本病の病徴、被害部の顯微鏡的觀察、病原菌の性質、培養試驗、接種試驗、病原菌の名稱、誘因、分布及び被害狀態、殺菌劑及び驅除豫防法等に就き硏究報告す。

甘蔗病害圃場鑑定便覽　岡田萬八　臺蔗硏會報 10, 3：103—145; 4：147—170; 5：210—223, 昭7(1932)

ARTHUR F. BELL：A key for the field identification of sugar cane diseases. Queensland Bureau of Sugar Exp. Sta., Div. of Pathology, Bull. 2, 1929 の抄譯。

甘蔗硬化病に對する圃場管理　金子昌太郎　臺蔗硏會報 12, 8：202—215, 昭9(1934)

硬化病の由來、氣象との關係及び調査成績に就き記載す。

甘蔗鞘枯病に就て 桐生知次郎 臺蔗研會報 **12**, 9 : 247—252, 昭 9 (1934)

本病の歴史、分布、病徵、病原菌 (*Cytospora Sacchari* Butl.)、類似病害との區別、被害狀況及び發病に關係ある條件、驅除豫防法に就き記載す。

Three important leaf spot diseases of sugar cane in Taiwan (Formosa). Matsumoto, T., Yamamoto, W. (松本巍, 山本和太郎) 熱農會誌 **6**, 3 : 584—598, 昭 9 (1934)

甘蔗の葉枯病(*Cercospora taiwanensis* sp. n.), 赤紋病 (*Cercospora Köpkei* Krüger), 眼狀斑點病 (*Helminthosporium ocellum* Faris) に就き病徵、病原菌形態、生理、接種試驗成績、品種による罹病程度等を記す。

臺灣蔗園に於ける霜害に就いて 鈴木正男 熱農會誌 **6**, 2 : 131—143, 昭 9 (1934)

霜害發生の主因をなす夜間低溫の考察、蒸發作用と植物溫度、臺灣に於ける霜害の考察等を記す。

Supplementary note on the Helminthosporiose of sugar cane. Matsumoto, T., Yamamoto, Y. (松本巍, 山本和太郎) 臺北帝大理農學部植物病理學教室 : 3 頁, 昭10(1935)

前報告の補遺にして、甘蔗褐條病に就き記述す。

甘蔗眼狀斑點病に就て 桐生知次郎 臺蔗研會報 **13**, 10 : 523—534, 昭10(1935)

本病の歴史、分布、病徵、病原菌の形態、性質、甘蔗に及ぼす影響、品種との關係、發病に關係する條件、病原菌の傳播、寄主、驅除豫防法に就き記す。

葉枯病の甘蔗に及ぼす影響竝に發病に關係する條件 桐生知次郎 臺蔗研會報 **13**, 12 : 663—666, 昭10(1935)

葉枯病 (*Cercospora taiwanensis* Mats. et Yam.) の甘蔗に及ぼす影響、發病に關係する條件に就て記述す。

甘蔗連作栽培に關する一考察 三宅勉, 足立仁, 山岸喜久男 日學協會報 **10**, 4 : 1102—1106, 昭10(1935)

蔗根附近の土壤中に於ける微生物、主として細菌、絲狀菌の種類竝に其の數の變異或は土壤の化學的方面の調査結果の一部を略述す。

甘蔗葉片赤斑病 (綜合抄錄) 福壽亮三 臺蔗研會報 **14**, 3 : 118—122, 昭11(1936)

甘蔗葉鞘赤斑病に就て 桐生知次郎 臺蔗研會報 **14**, 1 : 13—19, 昭11(1936)

本病の歴史、分布、病徵、病原菌 (*Cercospora vaginae* Krüg.)、甘蔗に及ぼす影響、發病と品種との關係、寄主、驅除豫防法等に就き記す。

鞘枯病の甘蔗に及ぼす影響竝に鞘枯病菌の葉鞘内に於ける生存期間 桐生知次郎 臺蔗研會報 **14**, 2 : 51—54, 昭11(1936)

葉枯病の甘蔗に及ぼす影響(補遺)竝に發病と品種との關係 桐生知次郎 臺蔗研會報 **14**, 5 : 185—188, 昭11(1936)

本病菌（*Cercospora taiwanensis* MATS. et YAM.）の甘蔗に及ぼす影響、發病と品種との關係に就き追報す。

甘蔗虎斑病(綜合抄錄)　桐生知次郎　臺蔗研會報 14, 2：58—61, 昭11(1936)

甘蔗褐條病(綜合抄錄)　桐生知次郎　臺蔗研會報 14, 2：61—65, 昭11(1936)

甘蔗鞘枯病に關する研究及調査(第1報) 病原菌の生理的性質に關する研究　桐生知次郎　臺糖試報告 4：172—194, 昭12(1937)

甘蔗鞘枯病菌（*Cytospora Sacchari* BUTL.）の生理的性質に就き實驗結果を報告す。

品種と病害との關係　岡田萬八　臺蔗研會報 15, 8：199—202, 昭12(1937)

蔗作研究會に於ける講演要旨。

濠洲の甘蔗病害と驅除豫防法　桐生知次郎　臺蔗研會報 16, 3：49—56, 昭13(1938)

濠洲に於ける病害の種類29種を擧げ病害と品種との關係、驅除豫防法等に就き記述す。

比律賓の甘蔗病害　桐生知次郎　臺蔗研會報 16, 7：154—158, 昭13(1938)

39種類の病害を擧げ學名を附し主要病害の2種に就き記載し、豫防驅除法を述ぶ。

甘蔗葉鞘赤斑病菌の生理的性質に關する研究　桐生知次郎　臺糖試報告 5：53—72, 昭13(1938)

本病菌の生理的性質に就き、實驗せる結果を報告す。

二、三の甘蔗病原菌の完全及び不完全時代に就て　松本巍，山本和太郎　病蟲雜 23, 1：9—14, 2：107—114, 昭13(1938)

甘蔗の輪斑病菌、褐條病菌、梢頭部腐敗病菌の分布、病徵、形態、培養等に就き報告す。

甘蔗の數種煤病菌　山本和太郎　植病會報 8, 2：95—112, 昭13(1938)

甘蔗の煤病菌3種、帶橄欖煤色粉狀の煤病菌（*Fumago vagans* PERS.）、黑色天鵞絨狀の煤病菌（*Caldariomyces fasciculatus* YAMAMOTO）、帶褐煤色薄膜狀の煤病菌（*Hypocapnodium* sp.）に就いて行つた觀察及び實驗結果を報告す。

爪哇の甘蔗病害　桐生知次郎　臺蔗研會報 17, 1：30—34, 昭14(1939)

27種類の病害を擧げ、學名を附し、主要病害2種に就き述べ之の豫防驅除法を記す。

南支那の甘蔗病害　桐生知次郎　臺蔗研會報 17, 4：244—245, 昭14(1939)

南支那の甘蔗病害を文獻に據り15種列擧す。

甘蔗鳳梨病菌の生理的性質に關する研究　桐生知次郎　臺糖試報告 6：21—38, 昭14(1939)

本病菌（*Ceratostomella paradoxa*）の生理的性質に就き實驗結果を報告す。

栃內博士著植物病理學通論と甘蔗露菌病菌の渡來に就て　三宅勉　臺農會報 1, 7：123—124, 昭14(1939)

甘蔗鞘枯病に關する研究及調査(第2報) 病原菌の傳染方法に關する研究　桐生知次郎　臺糖試報告 7：53—62, 昭15(1940)

本病の蔗苗、土壌、水、罹病株移植等による傳染に就き實驗結果を報告す。

甘蔗葉鞘赤斑病菌の葉鞘内に於ける生存期間 桐生知次郎 臺蔗研會報 18, 2 : 57—58, 昭15 (1940)

Cercospora vaginae Krüg. の葉鞘内に於ける生存期間を知る爲めの實驗結果を記載す。

高壓蒸氣殺菌土壌に於ける甘蔗の初期の生育 桐生知次郎 臺蔗研會報 18, 11•12 : 556—569, 昭15(1940)

殺菌土壌に於ける甘蔗の生育が頗る良好なることの理由を知らんとし、土壌微生物に關する調査を行つた結果を記す。

甘蔗赤腐病に對する品種の抵抗性試驗方法に就て 桐生知次郎 植病會報 10, 2•3 : 156—170, 昭15(1940)

甘蔗赤腐病の圃場に於て立毛甘蔗に對する人工接種試驗が、各國に於て施行せる方法と相違する點を報告す。

甘蔗葉鞘赤斑病菌の傳染徑路に就て 桐生知次郎, 萱島秀樹 臺蔗研會報 18, 3 : 99—103, 昭15(1940)

風に依る傳播、梢頭部苗による傳染等の實驗結果を記す。

甘蔗病害驅除豫防 桐生知次郎, 岡田萬八, 萱島秀樹 蔗作改良座談會講演集 : 98—129, 昭15(1940)

病害の種類、主要病害其他の問題に就きての講演要旨。

甘蔗硬化病と加里との關係 岡田萬八 臺糖試報告 7 : 42—52, 昭15(1940)

本病と加里との關係に就き調査成績を記す。

甘蔗節部の暗色現象並本現象と加里缺乏との關係 萱島秀樹 糖業試驗所創立十周年記念論文集 : 1—8, 昭16(1941)

暗色現象と甘蔗生育との關係に就き之が徵候並に實驗結果を記す。

甘蔗新育成品種と赤腐病との關係 桐生知次郎 臺蔗研會報 19, 1 : 38—40, 昭16(1941)

新育成品種に對する赤腐病菌の接種試驗成績を登載す。

甘蔗赤腐病菌の株出による傳染に就て 桐生知次郎 臺蔗研會報 19, 1 : 41—43, 昭16(1941)

赤腐病の株出に依る傳染に就て F109 の株出蔗園に於ける發病調査を行つた結果を報告す。

赤腐病の F 109 に及ぼす影響 桐生知次郎 臺蔗研會報 19, 3 : 152—159, 昭16(1941)

F109 は赤腐病に依り如何なる影響を受けるかに就き、生育莖數の減少、側芽苗仕立甘蔗の枯死等に就き調査結果を記す。

甘蔗新育成品種 F 121, F 123, F 124 及び F 125 と赤腐病との關係 桐生知次郎 臺蔗研會報 19, 12 : 755—757, 昭16(1941)

人工接種試驗に依り本病に對する抵抗性に就て試驗結果を報告す。

甘蔗輪枯病に關する研究　桐生知次郎　糖業試驗所創立十周年記念論文集：77—92, 昭16 (1941)

輪枯病の徵候、病原菌の形態、性質、分布、甘蔗に及ぼす影響、傳染徑路、誘因、品種との關係、輪枯病と類似病害との區別、防除法等に就き研究報告す。

沖繩の甘蔗病害　岡田萬八　臺蔗研會報 19, 1：44—49, 昭16(1941)

出張の途次4日間滯在し瞥見した沖繩の甘蔗病害に就き述ぶ。

甘蔗硬化病の發生と土壤水分との關係に就て　岡田萬八　臺蔗研會報 19, 10：606—632, 昭16(1941)

本病と氣象要素との關係、調査區に於ける概要、種々の實驗、試驗成績を表記す。

甘蔗の「蒲心」と土壤との關係に就て　岡田萬八　臺蔗研會報 19, 11：687—694, 昭16(1941)

蔗莖內部組織の海綿狀態、所謂蒲心と土壤濕度との關係に關する實驗結果を報告す。

甘蔗の暴風被害莖(豫報)　岡田萬八, 高橋秀雄　臺蔗研會報 19, 2：99—109, 昭16(1941)

昭和15年8月及び9月の各下旬、本島各地を襲つた暴風に依り蒙りたる蔗莖の影響に就き調査せし結果を報告す。

甘蔗枯腐莖に關する調査(第1-2報)　岡田萬八, 高橋秀雄　臺蔗研會報 19, 4：165—247, 昭16(1941); 20, 6：229—282, 昭17(1942)

調査材料、調査方法、調査成績、枯腐の原因等に就き、調査結果を表を附し報告す。

蔗苗に依り傳染する病害　桐生知次郎　臺蔗研會報 20, 1：15—19, 昭17(1942)

蔗苗に依り傳染する病害を各種の文献から摘錄して11種の病害に就き述ぶ。

甘蔗鳳梨病防除に關する一、二の考察　桐生知次郎　臺蔗研會報 20, 2：66—71, 昭17(1942)

本病菌の生理的性質を研究し、且つ圃場に於て種々調査により得たる防除上の一、二の着想に就き述ぶ。

甘蔗輪枯病と蔗苗との關係知見補遺　桐生知次郎　臺蔗研會報 20, 3：98—100, 昭17(1942)

本病の梢頭部苗に依る傳染と本病に依る發芽障害とに就き調査せし結果を報告す。

甘蔗輪枯病驅除豫防法　桐生知次郎　臺農會報 4, 8：34—39, 昭17(1942)

甘蔗輪枯病の防除法を解說す。

甘蔗輪枯病に關する研究及調査(第3報)　輪枯病の分布　桐生知次郎　臺糖試報告 11：20—27, 昭17(1942)

本病の世界及び臺灣に於ける分布を記載す。

甘蔗の老化現象に關する調査竝其原因に對する考察　桐生知次郎, 萱島秀樹　臺蔗研會報 20, 3：85—97, 昭17(1942)

老化と母莖分蘗莖との關係、老化莖の外觀的特徵、老化部の長さ及び重量、老化の甘蔗に及ぼす影響、病原體の探索、老化の發生に關する條件等につき研究報告す。

甘蔗硬化病と加里との關係(補遺)　岡田萬八　臺糖試報告 11：9—19, 昭17(1942)

甘蔗硬化病に對する加里の效果と品種との關係及びリグニン含量との關係を報告す。

甘蔗の暴風被害莖(完)　岡田萬八, 高橋秀雄　臺蔗研會報 20, 4：168—177, 昭17(1942)

昭和15年8月及び9月に襲來した大暴風による甘蔗被害莖の調査。

甘蔗梢頭部腐敗病　岡田萬八, 萱島秀樹　臺蔗研會報 20, 7：291—315, 昭17(1942)

本病の沿革、分布、病徵、病原菌の分離、接種試驗、形質、分類上の要約、甘蔗に及ぼす影響、品種との關係、誘因、寄主及び驅除豫防法に就き述ぶ。

病害と甘蔗品種　岡田幸生　臺灣甘蔗品種に關する研究(臺糖試報告12), 第7章：78—87, 昭17(1942)

臺灣に於ける甘蔗品種と病害との關係を述ぶ。

2. 纖維料作物

七島藺鼈甲病論　川上瀧彌　裳華房發行：15頁, 明37(1904)

七島藺の鼈甲病に就き調査史、名稱、病徵、病原菌、接種試驗、誘因、豫防法を說き、併せて七島藺の他の病害を紹介す。

七島藺鼈甲病　川上瀧彌　臺農事報 46：11—13, 明43(1910)

七島藺の鼈甲病 (*Kawakamia Cyperi*) に就て略記し、本病の米國に於ける發生を紹介す。

アンバリヘンプ腐爛病に就て　藤黑與三郎　臺農事報 6, 4：13—15, 明45(1912)

アンバリヘンプ (*Hibiscus cannabinus* L.) の腐爛病の病徵、病原菌 (*Colletotrichum Hibisci* Corda) の形態、豫防驅除法を記述す。

草棉の炭疽病に就て　藤黑與三郎　臺農事報 6, 10：23—26, 大1(1912)

棉の炭疽病 (*Glomerella Gossypii* (Sowthw.) Edgerton) の沿革、病徵、病原菌、豫防驅除法に就き述ぶ。

七島藺鼈甲病に就て　澤田兼吉　臺農事報 10, 7：16—27; 臺農試出版 102：12頁, 大5(1916)

七島藺の鼈甲病に就て研究史、病徵、病原菌の人工培養、接種試驗、*Kawakamia* 屬の特徵、之に對する論議、病原菌の記載、豫防驅除法を述べたり。

黃麻立枯病(豫報)　澤田兼吉　臺農事報 10, 11：16—23; 臺農試出版 107：7頁, 大5(1916)

黃麻の立枯病 (*Macrophoma Corchori* Sawada) に就て病徵、被害狀況、病原菌、接種試驗、誘因、豫防驅除法を記す。

アンペラ疫病　澤田兼吉　臺農試出版 131：12頁, 大8(1919)

本病の由來、病徵、病原菌、防除法に就て記す。

黃麻の剪葉による減收　澤田兼吉, 黑澤英一, 陳其昌　臺中研農彙報 74：10頁, 昭5(1930)

强風により葉の除去された黃麻の減收を知るため、剪葉を行ひ之による減收を實驗報告す。

臺灣農作物病害蟲防除要覽　第5編　棉の病害　三宅勉　臺殖出版 812：41頁, 昭13(1938)

棉の病害に就き病徴、病原菌、分類學上の位置、世界に於ける分布等を述べ防除法を附す。

3. 油料作物

落花生の葉澁病 鈴木力治 臺農友會報 12 : 24—28, 明40(1907)

落花生の葉澁病 (*Cercospora personata* (B. et C.) Ell.) に就て病徴、病原菌の學名、所屬、記載を行ひ、生活史を論じ、豫防法及び檢索表を附す。

蓖麻銹病に就て 藤黒與三郎 臺農事報 **6**, 5 : 9—10, 明45(1912)

蓖麻銹病菌 (*Melampsora Ricini* (Biv.) Pass.) に就き記述す。

Contributions to the knowledge of anthracnoses of plants. II. On *Gloeosporium Olivarum* Alm. causing the olive anthracnose. Hemmi, T., Kurata, S. (逸見武雄, 倉田靜子) 熱農會誌 **6**, 3 : 573—583, 昭 9 (1934)

オリーブ炭疽病の病徴、病原、菌の形態、生理、病原性等に就て述ぶ。

臺灣の蓖麻病害に就て 小川正行 臺農事報 **36**, 6 : 507—524; 臺農試彙報 172 : 18頁, 昭15 (1940)

蓖麻の各種病害 (白絹病、疫病、苗枯病、青枯病、根腐病、黒腐病、菌核病、斑點病、細菌性斑點病、黒銹病、腐敗病、炭疽病) に就き分布、發生期、被害狀況、病徴、病原菌、防除法を述べ檢索表を附す。

4. 嗜好料作物

茶樹腫萎病 川上瀧彌 臺農事報 38 : 17—20, 明43(1910)

茶の腫萎病 (*Exobasidium vexans* Mass.) に就て名稱、歴史、臺灣の被害區域、病徴、病原菌、誘因及び傳播法、病害と製茶との關係に就て記述し、併せて豫防法を紹介し、最後に結論を擧ぐ。

A new Exobasidium disease of the tea-plant. Ito, S., Sawada, K. (伊藤誠哉, 澤田兼吉) 植雜 **26**, 308 : 237—241, 大 1 (1912)

茶白黴病を報告し、其の病原菌なる *Exobasidium reticulatum* S. Ito et Sawada を新種として記載す。

茶の最も恐るべき二病害 澤田兼吉 臺農事報 **6**, 9 : 18—23, 大 1 (1912)

茶樹腫萎病 (*Exobasidium vexans* Mass.) 及び茶樹裏網病 (*Exobasidium reticulatum* Ito et Sawada) に就て沿革、病原菌形態、豫防驅除法を記す。

臺灣に於ける茶樹の病害 澤田兼吉 臺博會報 **3**, 9 : 1—18, 大 2 (1913)

茶の煤病、腫萎病、白黴病、白絹病、葉枯病、輪斑病等の病原菌及び其他の茶樹寄生菌、計14種に就て菌の形態を記述す。

珈琲褐眼病に就て 藤黒與三郎 臺博會報 **4**, 17 : 191—192, 大 3 (1914)

Cercospora Coffeae Zimm. によるコーヒーの褐眼病の病徴、病原菌、豫防驅除法を記す。

臺灣産茶樹の菌類によりて起る病害　澤田兼吉　臺農試特報 11：91—139, 大 4 (1915)

茶樹の腫委病、白黴病、葉枯病等14種類の病害につき調査せる成績を記載す。

Can Exobasidium vexans Mass. bear conidia besides the basidiospores ? SAWADA, K. (澤田兼吉)　臺博會報 12, 59：1—7, 大11(1922)

茶樹餅病菌に就てその conidia の形成に就き各人の說を紹介論及す。

珈琲銹病調査書　澤田兼吉　臺灣農友會出版：18頁, 昭 6 (1931)

本病の歴史、分布、病原菌、被害狀況、防除對策等を記す。

煙草モザイクヴアイラスの植物體内に於ける分布、並にその濃度に關する血清學的測定（講演要旨）松本巍, 平根誠一　植病會報 6, 1：91—92, 昭11(1936)

An unusual mode of transmission of a certain tobacco virus disease somewhat closely related to leaf curl or kroepock. MATSUMOTO, T. (松本巍) 臺博會報 28, 176：123—136, 昭13(1938)

アフリカ、印度、ジャワ等に發生する Leaf curl 又は Kroepock と呼ばれるヴィールス病に稍々近緣の特殊な萎縮性病害を發見し之に就き觀察及び實驗結果を報告す。

Mites in relation to leaf curl-like tobacco disease. MATSUMOTO, T. (松本巍) 臺博會報 29, 187：90—91, 昭14(1939)

臺灣博物學會報28巻、176 號に於て Leaf curl 類似病害に就き發表し、葉裏面に光澤ある部分の出現を以つて感染が起つたと認定したが、この光澤はヴィールスに依るものではなく、ダニの害に依る事が解つた。併し本病が全くダニのみによつて起るものか否かに就て疑問があるので之に關し研究發表す。

臺灣産煙草ヴアイラス病　松本巍, 楯岡良介　病蟲雜 27, 1：11—17, 昭15(1940)

モザイック病又は普通モザイック病、輕症モザイック病A型、B型、黄色モザイック病、エッチ病、混合疾患、巻葉病に就き病徵、傳染等に就き記述す。

Virus diseases of tobacco Formosa. MATSUMOTO, T., TATEOKA, R. (松本巍, 楯岡良介) 臺博會報 30, 197：31—33, 昭15(1940)

臺灣に於て發見されし煙草ヴィールス病の 8 種に就き略述す。

セイロンに於ける煙草病害に關する研究 I–II.　東元樹　煙草研究資料 7：33—47、昭16 (1941)

PARK, M. & FERNANDO, M.: Some studies on tobacco diseases in Ceylon. I–II. Trop. Agriculturist, 88：153—168, 266—282, 1938. を紹介す。

ヴアイラスに因る二、三の煙草壞疽疾患について　松本巍　臺博會報 31, 217・218：433—442, 昭16(1941)

病徵、血清反應と免疫現象による相互比較等に就き述ぶ。

昭和16年期煙草病害景觀 松本巍 煙草研究資料 7 : 27—34, 昭16(1641)

昭和16年期臺灣に於て注意を引いた煙草病害に就きて述ぶ。

Serological studies on the distribution and concentration of tobacco mosaic virus in host plants. I. Measurements of virus after 2—4 days. MATSUMOTO, T. (松本巍) 臺博會報 **31**, 212 : 201–215, 昭16(1941)

煙草モザイックヴァイラス接種2—4日後のヴァイラスの血清反應による測定。

Serological studies on the distribution and concentration of tobacco mosaic virus in host plants. II. Measurements of virus 5—15 days after inoculation. MATSUMOTO, T. (松本巍) 臺博會報 **31**, 213 : 275—285, 昭16(1941)

煙草モザイックヴァイラス接種5—14日後のヴァイラスの血清反應による測定。

Serological studies on the distribution and concentration of tobacco mosaic virus in host plants. III. Measurements of virus 15—30 days after inoculation. MATSUMOTO, T. (松本巍) 臺博會報 **31**, 214•215 : 306—313, 昭16(1941)

煙草モザイックヴァイラス接種15—30日後のヴァイラスの血清反應による測定。

Serological studies on the distribution and concentration of tobacco mosaic virus in host plants. IV. Measurements of virus 1–2 months after inoculation. MATSUMOTO, T. (松本巍) 臺博會報 **31**, 216 : 345—350, 昭16(1941)

煙草モザイックヴァイラス接種1—2箇月後のヴァイラスの血清反應による測定。

Serological studies on the distribution and concentration of tobacco mosaic virus in host plants. V. Measurements of virus at intervals after two months. MATUMOTO, T. (松本巍) 臺博會報 **31**, 219 : 445—450, 昭16(1941)

煙草モザイックヴァイラス接種63—89日後のヴァイラスの血清反應による測定。

"Etch" の一種と見做さるる煙草ヴアイラス病(豫報) 松本巍 臺博會報 **32**, 222 : 111—124, 昭17(1942)

病徵、血清反應、交叉免疫試驗、病毒汁液の稀釋度と感染力との關係、病毒汁液の耐熱性、病原保持期間、耐乾性、濾過性、酒精に對する抵抗力、酸及びアルカリに對する抵抗力、煙草以外の植物に對する感染力等に就き試驗研究結果を詳述す。

煙草ヴアイラス病の諸問題 松本巍 植及動 **10**, 9 : 801—804, 昭17(1942)

煙草ヴァイラス病の病徵の變異、病葉の乾燥、病毒汁液の傳染力保持期間、血清反應等に就き記述す。

熱帶・溫帶兩地方に於ける煙草病害の比較 松本巍 植及動 **10**, 12 : 1081—1083, 昭17(1942)

臺灣に於ける煙草病害の發生狀況を記し、內地に於ける被害と比較考察す。

Serological studies on the distribution and concentration of tobacco mosaic

virus in host plants. VI. Further evidences for the presence of virus in the xylem. MATSUMOTO, T.（松本巍） 臺博會報 32, 223 : 159—167, 昭17(1942)

モザイック罹病煙草の木質部にヴィールスの存在することを血清反應により證明す。

Serological studies on the distribution and concentration of tobacco mosaic virus in host plants. VII. Measurements of virus in flower clusters and capsules. MATSUMOTO, T.（松本巍） 臺博會報 32, 226 : 257—266, 昭17(1942)

煙草の花房と蒴に於けるヴィールスを血清反應により測定す。

5. 藥料作物

臺灣に於ける規那の病害調査 澤田兼吉 臺農事報 12, 6 : 31—47, 臺農試出版 128 : 32頁, 大7 (1918)

規那の各種病害就中葉枯病、根腐病、萎縮病、粉病に就て發生時期、被害程度、品種、發病と生育期、土壤整地、種子消毒、施肥、畦高及び水、氣温、害蟲等との關係、病原及び誘因、防除法を記述し、次期に行ふべき方法に對する意見を開陳す。

規那種子消毒と規那葉枯病の豫防に就て（豫報） 澤田兼吉 臺農事報 12, 11 : 7—10, 大7 (1918)

鹽水選、昇汞水、温湯浸法、冷水温湯浸法を用ひて、規那種子の消毒試驗を行ひその成績を示す。

臺灣に發生する規那疫病に就て 澤田兼吉 臺農事報 32, 5 : 326—349, 昭11(1936)

本病の臺灣に於ける發生、被害發生條件、病徵、病原菌の分離、形態、培養、生理、接種試驗、藻菌類による規那の他の病害と臺灣の病害との比較檢索、防除法を記し、本病菌を *Phytophthora Cinchonae* SAWADA と命名、規那臺灣疫病と呼ぶことを提唱す。

タマサキツヅラフジ根塊のアルカロイド含量に關する試驗研究. 第2報 白絹病菌の寄着に因る粗アルカロイド含量の變異 石丸諒 臺農事報 36, 1 : 99—105; 臺農試彙報 166 : 12頁, 昭15(1940)

タマサキツヅラフヂ根塊が白絹病により腐敗した場合のアルカロイド含量の變化を分析により調査す。

臺灣に於ける規那の腐敗性細菌病の病原菌について 松本巍, 平根誠一 臺博會報 31, 208 : 1—13, 昭16(1941)

病徵、病原菌の形態、培養的性質、病原性、ファーヂュに對する關係、血清學的性質等の研究を行ひ、病原菌を *Bacillus aroideae* TOWNSEND と同定す。

IV. 果樹及び果實の病害

1. 柑　橘

柑橘病害論 川上瀧彌 臺殖出版 : 42頁, 明39(1906)

Swingle, Webber 兩氏の米國 Florida に於ける柑橘類病害報告を補譯す。

柑橘赤衣病 澤田兼吉 臺農事報 7, 7 : 609—615, 大2(1913)

柑橘赤衣病の病徴、病原菌、驅除豫防法に就き略述す。

柑橘立枯病(豫報) 澤田兼吉 臺農事報 7, 10 : 903—914, 大2(1913)

本病の文獻、分布、病徴、被害狀況、苗木養成所の狀態及び產出苗の移出先に於ける生育狀態、本病と柑橘種類との關係、砧木、土質、乾濕、風、肥料等との關係を論じ、本病に關する農民の言を引き、病原線蟲に就て考察を加へたり。

北米合衆國に於ける柑橘立枯病々原說 澤田兼吉 臺農事報 9, 1 : 9—14, 大4(1915)

J. R. Hodge, E. E. Thomas, 及び N. A. Cobb の3氏の報告を抄譯し、米國に於ける線蟲による柑橘立枯病の研究史を紹介す。

所謂火燒柑について 澤田兼吉 臺農事報 9, 11 : 1217—1223; 臺農試出版 80 : 7頁, 大4(1915)

柑橘象皮病の病徴、病原蟲、誘因、傳播の方法、驅除豫防法等を記す。

柑橘立枯病の病原蟲及其豫防法の一端 澤田兼吉 臺農事報 10, 5 : 342—364; 臺農試出版 100 : 44頁, 大5(1916)

柑橘の立枯病に就て病徴、病原蟲 (*Tylenchus semipenetrans* Cobb.) の記載、生活史、寄主植物、分布を紹介し、接種試驗、傳播方法、誘因及び素因、豫防驅除試驗等の結果に就て記述す。

新竹廳下に於ける柑橘象皮病(火燒柑)豫防の利益 澤田兼吉 臺農試出版 112 : 12頁, 大6(1917)

藥劑撒布により柑橘象皮病を豫防したる場合の利益を記す。

柑橘象皮病豫防の利益 澤田兼吉 臺農事報 11, 1 : 6—12, 大6(1917)

石灰硫黃合劑撒布による柑橘象皮病防除の利益に就きて述ぶ。

柑橘赤衣病 澤田兼吉 臺博會報 8, 38 : 153—155, 大7(1918)

柑橘赤衣病の病徴及び各種寄主植物名、採集地を示す。

麻豆文旦象皮病の豫防 澤田兼吉, 末田平七 臺中研農彙報 9 : 11頁, 大11(1922)

麻豆文旦象皮病に對する藥劑撒布試驗成績。

柑橘象皮病豫防に對する石灰硫黃合劑の濃度に就て 澤田兼吉, 黑澤英一 臺中研農彙報 17 : 18頁, 大13(1924)

象皮病に對する石灰硫黃合劑の濃度試驗を室內及び室外實驗に依り施行し、防除法を確立せり。

員林地方に於ける椪柑象皮病豫防試驗成績 澤田兼吉, 黑澤英一 臺中研農彙報 18 : 27頁, 大13(1924)

臺中州員林產椪柑象皮病豫防の圃場試驗成績を纒め防除を確立す。

柑橘瘡痂病の病原菌に就て（豫報） 澤田兼吉，黑澤英一 臺中研農彙報 24：23頁，大14(1925)

本病の病徵、寄主植物、病原に對する諸說、病原菌の分類を行ひ、本病が *Ovularia Citri* Br. et Farn. により生ずることを述べ、該菌の記載をなせり。

蜜柑綠黴病に關する試驗（豫報） 黑澤英一 臺博會報 17，89：89—120，昭2(1927)

Penicilium olivaceum 菌に就て藥劑と胞子抵抗力、蜜柑の藥液消毒、同瓦斯消毒の結果を報告せり。

柑橘病原學講義 澤田兼吉 柑橘研究 1，2：92—107，昭2(1927)；2，1：101—115；2：257—276，昭3(1928)； 3，2：248—267， 昭4(1929)； 4，2：265—283，昭6(1931)

柑橘病害の病原を解說す。

柑橘紋羽病及其防除 澤田兼吉，黑澤英一 臺中研農彙報 46：21頁，昭2(1927)

柑橘紋羽病（*Anthina Citri* Sawada）の豫防法を記す。

柑橘瘡痂病源菌論批判（1）柑橘瘡痂病源菌論經過次第 田中長三郎 柑橘研究 1，2：22—24，昭2(1927)

柑橘瘡痂病々原菌の所屬に關する議論の經過を述ぶ。

柑橘瘡痂病豫防試驗成績 澤田兼吉，黑澤英一 臺中研農彙報 56：32頁，昭3(1928)

柑橘瘡痂病に對し如何なる時期に如何なる藥劑を撒布せば最も有效なるや、又如何なる時期に幾回撒布することによりて大體の豫防を遂げ得るやを試驗せるものなり。

柑橘病蟲防除栞 臺中州農會出版、昭4(1929)

臺北地方に於ける高檣桶柑象皮病豫防試驗成績 澤田兼吉，黑澤英一 臺中研農彙報 73：17頁，昭5(1930)

石灰硫黃合劑による本病の豫防試驗の實驗成績にして、時期、回數、氣象との關係に就て記す。

蜜柑黑星病豫防試驗成績 澤田兼吉，黑澤英一 臺中研農彙報 82：17頁，昭5(1930)

柑果黑星病に對しボルドウ液、石灰硫黃合劑、松脂合劑等の撒布時期、濃度、回數の影響を實驗報告す。

新竹州柑橘象皮病の豫防 熱帶園藝 1，7：421—422，昭6(1931)

新竹州に於ける實施狀況を記述す。

柑橘赤衣病防除試驗 澤田兼吉，黑澤英一 臺中研農彙報83：10頁，昭6(1931)

柑橘赤衣病（*Corticium salmonicolor* Berk. et Broom.）の圃場試驗並に防除法に就き述ぶ。

蜜柑黑星病の發生蔓延に關する研究 澤田兼吉 臺農事報 31，7：632—643；8：712—730，昭10(1935)

蜜柑黑星病 (*Phoma citricarpa* McAlpine) に就て研究史、發病部位、類似病斑、胞子の性質、胞子發芽と刺戟物、發育と溫度、接種試驗、誘因（ミカントゲカメムシとの關係、水滴、日射との關係)、分布と氣溫、收穫時期との關係等に就きて記せり。

柑橘旱害と之が豫防策に就て　新竹州農會　熱帶園藝 5, 1 : 1—4, 昭10(1935)

斑葉病問題（最近の柑橘諸問題 1）　田中長三郎　熱帶園藝 5, 3 : 225—228, 昭10(1935)

柑橘斑葉病の概要を紹介す。

宜蘭地方に於ける溫州蜜柑立枯に關する調查　三宅勉, 櫻井芳次郎　臺北州農會出版 : 43頁, 昭11(1936)

宜蘭地方の溫州蜜柑の落葉立枯に關する調查結果を記述す。

柑橘斑葉病に對する防除試驗の經過　田中長三郎　熱帶園藝 6, 1 : 78—82, 昭11(1936)

E. R. Parker (1935) 及び A. F. Canp (1935) の報告を紹介す。

柑橘斑葉病　廖學義　熱帶園藝 8, 3 : 231—235, 昭13(1938)

柑橘斑葉病に對し硫酸亞鉛撒布の結果及び罹病葉と正常葉との比較を記載す。

臺灣產柑橘果實の貯藏輸送中の腐敗　橋岡良夫　柑橘研究 10, 1•2 : 18—46, 昭13(1938)

柑果の出廻期及び腐敗菌の發生期、貯藏及び輸送中の腐敗、腐敗菌の分離並に接種試驗、腐敗病各論等に就き調查せし結果を記す。

柑橘種類と日燒及び裂開果との關係　彌富忠夫　柑橘研究 8, 2 : 235—237, 昭13(1938)

柑橘黑星病の感染期に就て　小平武夫, 佐藤保　病蟲雜 25, 10 : 766—770, 昭13(1938)

新竹州新竹郡新埔庄より得たる椪柑及び桶柑の未熟果より黑星病菌の分離に成功し、本病菌は幼果時代に旣に果皮組織中に感染潜伏せるを確認す。

柑橘黑星病菌の柑果侵入時期に就て　德永芳雄　臺農事報 36, 5 : 491—497, 昭15(1940)

柑橘黑星病菌に就て未熟果よりの分離試驗、本菌分離率と果齡との關係等に就て試驗結果を記す。

柑橘黑星病豫防試驗成績（昭和14年度）　臺北州農會　臺農事報　36, 9 : 845—849, 昭15(1940)

高埔桶柑を用ひ、藥劑撒布試驗を施行したる成績の概要を記述す。

柑橘黑星病菌の寄生に關する實驗的研究（豫報）　末田平七　臺博會報 31, 217•218 : 416—432, 昭16(1941)

枝葉に於ける病原菌の有無、葉に於ける病原菌の寄生に就き行ひたる實驗結果を報告す。

柑橘の黑褐色煤病菌　山本和太郎　熱農會誌 13, 3 : 213—221, 昭16(1941)

臺北市附近の各種植物に就て調查を行つた結果から、昆蟲に隨伴して發生する所謂煤病菌の不完全菌時代の胞子型、記載、分類及び種名、宿主昆蟲、宿主植物、胞子型と其の宿主に對する考察等につき記載報告す。

柑橘黒星病豫防法に關する試驗成績　彌富忠夫　臺農會報 3, 8 : 58—78, 昭16(1941)

本病の研究歴史、供試材料及び試驗方法、調査事項、調査成績、貯藏と本病發生との關係等に就き述ぶ。

臺灣産柑果の腐敗防除　橋岡良夫　熱帶園藝 10, 2 : 143—164, 昭16(1941)

柑果の綠黴病及び炭化病に就き病原菌の寄主體侵入及び藥劑による防除に關する實驗の結果を報告す。

臺灣蜜柑とその病害　逸見武雄　日本みかん新報 292 : 1; 293 : 1; 294 : 1; 295 : 1, 296 : 1, 昭16(1941)

臺灣に於ける柑橘の生產高、植物檢査の概況、黑星病防除の概念、貯藏中の腐敗、黑星病菌の寄主體侵入時期等に就き臺灣に於て見聞し或は蒐集せる文献により記述す。

2. バ ナ ナ

臺灣に於けるバナナ(芎蕉)の主なる病害　澤田兼吉　臺農事報 7, 2 : 18—29, 大2(1913)

バナナの萎縮病、炭疽病（*Gloeosporium Musarum* Cooke et Mass.), 黑星病（*Macrophoma Musae* (Cooke) Berl. et Vogl.）に就て病徵、發病狀態、耐病品種、發生時期、對策、病原等を記す。

芎蕉の葉は寒氣に遭ふと萎縮す　澤田兼吉　臺博會報 8, 34 : 29, 大7(1918)

寒害により萎縮病類似の葉を生じた例を記す。

バナナ萎縮病抵抗性品種仙人種及高脚蓮の比較　澤田兼吉　臺博會報 17, 93 : 418—439, 昭2(1927)

蕉實軸腐の研究　加藤謙一　臺農事報 22, 1 : 49—58; 2 : 165—173, 昭3(1928)

バナナ軸腐の種類と經過、軸腐釀成の諸原因、バナナ輸送軸腐試驗等に就きて記述す。

臺灣産甘蕉の輸送中に於ける病害　平井篤造　植病會報 8, 2 : 145—166, 昭13(1938)

臺灣產バナナの內地向輸送中に發生する病害、卽ち青熟病、風引、軸腐病、果實落下病、黑腐病、白絹病、灰黴病、炭疽病、黑星病等を記載す。

バナナ青膨に關する調査　三宅勉　臺灣農會出版 9 : 226頁, 昭17(1942)

昭和11, 12, 13年度3箇年間に於ける輸送試驗及び臺北に於けるバナナ青膨調査結果に就き詳細に報告す。

3. 鳳　　梨

鳳梨根の病蟲害及鳳梨萎縮病　渡邊正一　熱帶園藝 1, 11 : 597—603, 昭6(1391)

鳳梨根を侵す蟲類及び病原體の略解並に萎凋に關する全般的考察に就き記載す。

パイナツプルノコナカヒガラムシと鳳梨萎縮病　渡邊正一　臺農事報 30, 7 : 654—665, 昭9(1934)

Illingworth, Carter 兩氏の鳳梨粉介殼蟲及び鳳梨萎凋病に關する研究を紹介す。

鳳梨が線蟲 "Heterodera marioni" に依りて引起さるる養分攝取の變化 渡邊正一 熱帶園藝 4, 6 : 269—272, 昭9(1934)

O. C. MAGISTAD & JULIETTE M. OLIVEIRA : Changes in plant-food intake caused by a population of *Heterodera marioni* (CORNU) GOODEY on *Ananas comosos*. Phytopath. 24 : 276—283, 1934 の譯述。

鳳梨果實の障害 三宅勉 臺灣合同鳳梨株式會社出版 : 40頁, 昭11(1936)

鳳梨の花、其他の形態の品種的差異を說き、黑目病、芯折、芯割、花棒腐敗、白黴等の疾病11種に寫眞を添へて解說を加へ、併せてハワイ、西印度、オーストラリア、クインスランド、南阿、フイリッピンの鳳梨病害を紹介す。

臺灣鳳梨病害解說 德永芳雄 熱帶園藝 6, 3 : 335—339, 昭11(1936)

鳳梨萎凋病、鳳梨根腐病、鳳梨苗枯病、鳳梨黃化病(萎黃化病)、鳳梨線蟲病(根瘤病)、鳳梨病(黑腐病)、鳳梨小果腐敗病、日燒等に就き病徵、豫防驅除法等につき略述す。

鳳梨萎凋病に就て 渡邊正一 熱帶園藝 6, 2 : 105—136, 昭11(1936)

世界に於ける鳳梨萎凋病に關する研究及び本島に於ける萎凋病の發生、原因、本島に於ける研究、防除試驗並に對策等に就き述ぶ。

鳳梨萎凋病に關する圃場試驗及調査 德永芳雄, 高橋良一 臺農事報 38, 5 : 374—384; 臺農試彙報 205 : 13頁, 昭17(1942)

本島の鳳梨萎凋の各種原因中、鳳梨粉介殼蟲と本病發生との關係を檢するため、鳳梨の生育、葉の變色、パインアップルノコナカヒガラムシ及び其他の昆蟲と發病狀況を調査觀察せるものなり。

4. 其　　他

桃黑星病に就て 藤黑與三郎 臺博會報 4, 16 : 152—155, 大3(1914)

Cladosporium Carpophilum THÜM. による桃の黑星病に就て病徵、被害步合、寄主、分布、誘因を述べ菌形態、驅除法を併記す。

バンジロウの立枯病 黑澤英一 臺博會報 16, 83 : 47—61, 大15(1926)

バンジロウ（蕃石榴）の立枯病の被害、病徵、病原菌、同菌の分離、接種試驗、培養上の性質、病原菌の分類學上の位置、同記載、驅除豫防法、分布等を記す。

臺灣に於ける果樹園藝に關する昆蟲病理の文獻書目 吉原操 熱帶園藝 4, 5 : 215—219, 昭9(1934)

臺灣青果物の病害概要 三宅勉 日學協會報 10, 2 : 587—589, 昭10(1935)

バナナ、鳳梨、柑橘の主要病害、傷害計11種に就き解說を加ふ。

柿の褐色煤病菌 山本和太郎 植病會報 10, 2・3 : 254—264, 昭15(1940)

本菌の胞子型、菌の記載、宿主昆蟲及び宿主植物、分類及び種名に就き報告し、本煤病菌を

Phaeosaccardinula javanica (ZIMM.) comb. nov. なる組合に依る新學名を與へた。

V. 蔬菜の病害

胡瓜露菌病菌の游走子の行程 澤田兼吉 臺博會報 4, 19 : 228, 大 3 (1914)

游走子の游泳行程の極めて大なることを記す。

馬鈴薯疫病菌屬に屬する 2 新病菌によりて起る葱及茄の病害 澤田兼吉 臺農試特報11 : 1—90, 大 4 (1915)

葱疫病 (*Phytophthora Allii* SAWADA), 茄果の綿疫病 (*Phytophthora Melongenae* SAWADA) の試験研究成績を登載す。

菠薐草露菌病と雜草との關係 澤田兼吉 臺農事報 10, 6 : 443—451; 臺農試出版 101 : 17頁, 大 5 (1916)

菠薐草のベト病菌 *Peronospora effusa* (GREV.) CES. に就て研究史、寄主植物を紹介し、コアカザの露菌病菌と比較を行ひ、相互接種試驗を行ひたる結果を記す。

瓜類露菌病菌に就て (豫報) 黑澤英一 臺博會報 14, 73 : 35—54, 大13(1924)

各寄主植物上の本病菌の比較及び接種試驗の結果を記述す。

胡瓜露菌病菌の性質に就て 黑澤英一 臺博會報 17, 88 : 1—18, 昭 2 (1927)

胡瓜露菌病菌の胞子懸滴培養試驗、培養基上の培養實驗、胡瓜葉上の培養、抵抗性、病原菌と昆蟲との關係、菌の越年に就て實驗結果を記す。

葱赤銹病菌の學名に就て 澤田兼吉 臺博會報 18, 96 : 148—163, 昭 3 (1928)

葱銹病の日本に於ける沿革、外國記載葱寄生銹菌 *Puccinia Porri* と *P. Allii* の形態上の差、臺灣の葱銹病菌及び之と *Puccinia Alliivora* との比較を記せり。

ダイジヨウ及ナガイモの黑斑病に就て 後藤和夫 熱農會誌 1, 301—313, 昭 4 (1929)

本菌に對する病徵、病原菌の形態、培養、接種試驗、分類、病名、被害其他に就き研究發表す。

葱銹病菌 Puccinia Porri 日本に產す 澤田兼吉 臺博會報 19, 101 : 180—185, 昭 4 (1929)

盛岡附近で採集された標本の中に *Puccinia Porri* (SOW.) WINT. 菌にあたるものゝある事を報告せり。

Onion rusts of Japan. I. GOTO, K. (後藤和夫) 熱農會誌 5, 2 : 167—177, 昭 8 (1933)

各地 *Allium* 屬より得た南北兩種の多數銹菌系統の夏胞子、冬胞子の形態、各種葱類に對する接種試驗結果を示す。

Relations between length and width suggesting volume-constancy in the under-cell of teliospores of onion rust. GOTO, K. (後藤和夫) 植病會報 3, 1 : 22—

36, 昭9(1934)

冬胞子を多數測定した結果、下方の細胞の長さL、幅Wとの間には略々次の如き關係が成立することを述ぶ。

$(L-2)(W-3)^2=C$　(C=恒數)

葱銹病菌に就ての觀察二、三　後藤和夫　農及園 10, 4: 976—982, 昭10(1935)

銹病菌と赤銹病菌の潜伏初期の温度と發病、冬胞子堆の形成と温度、側絲の分量と冬胞子堆の色及び被覆、冬胞子頂胞厚部の轉移、胞子堆被覆と胞子各部の測度に就き研究報告す。

Onion rust of Japan. II. Biometrical studies on uredio-and teliospores. GOTO, K. (後藤和夫)　熱農會誌 6, 1: 44—53, 昭10(1935); 7, 1: 38—47, 昭11(1934)

葱銹病の東西兩系統の夏胞子、冬胞子の生物學的測定の結果を誌す。

臺灣產西瓜の Fusarium 病に就て(講演要旨) 黑澤英一　植病會報 10, 4: 335—336, 昭16(1941)

VI. 花卉の病害

百合の一新病害に就て　藤黒與三郎　植雜 28, 329: 228—230, 大3(1914)

百合の疫病 (*Botrytis Liliorum* FUJIKURO) に就て病徵、病原菌の記載をなす。

金魚草の苗腐病に就て　澤田兼吉, 陳其昌　臺博會報 16, 87: 199—212, 大15(1926)

金魚草に生ずる一種の新病害に就て病徵、菌の分離、人工培養、各種植物に對する接種試驗、病原菌形態、生理、分類、驅除豫防試驗に就て記す。

On the causal organisms of bacteria soft rot of Kotyoran, Phalaenopsis Aphrodite Reichb. MATSUMOTO, T., OKABE, N. (松本巍, 岡部德夫)　熱農會誌 3, 2: 117—133, 昭6(1931)

蝴蝶蘭の細菌性軟化腐敗病々原菌に就き研究し、本菌は *Bacillus carotovorus* JONES と密接なる類緣關係を有するを以て便宜上 JONES の *Bac. carotovorus* 菌をA型とし、本菌をB型と呼ばんとす。

血清學及細胞學的竝に接種試驗に依る2種のペチユニアモザイツク病の鑑別　松本巍　植及動 3, 5: 893—898, 昭10(1935)

病徵、血清反應、接種試驗、細胞包含體に就き論述す。

Two strains of Petunia mosaic. MATSUMOTO, T., HIRANE, S. (松本巍, 平根誠一)　臺博會報 29, 184・185: 1—12, 昭14(1939)

ペチュニアモザイックに存在する2系統の病徵は殆ど全く同様で若干の細き點に於て異るのみである。此の點に就ての實驗結果を報告す。

VII. 樹木の病害

樟白絹病に就て 澤田兼吉 臺農事報 49 : 7—16, 明43(1910)

樟の白絹病卽ち樟大粒白絹病 *Hypochnus Sasakii* Shirai, 樟小粒白絹病 *Hypochnus Cinnamoni* Sawada sp. nov., 樟白絹病 *Hypochnus Cucumeris* Fr. の病徵、分布、菌形態に就て記述す。

樟大粒白絹病に就て 澤田兼吉 臺農事報 60 : 29—40, 明44(1911)

樟大粒白絹病の歷史、被害植物、病徵、各植物に對する被害狀況、病原菌、分布及び發生時期、消毒法、豫防驅除法に就き記述す。

相思樹銹病 澤田兼吉 臺農事報 6, 11 : 947—950, 大1(1912)

病原菌を *Uromyces hyalosporus* Sawada sp. nov. とし、その形態其他を記載せり。

Uromyces hyalosporus Sawada. sp. nov., causing the disease to the shoots of Acacia confusa. Sawada, K. (澤田兼吉) 植雜 27, 313 : 16—20, 大2(1913)

Uromyces hyalosporus Sawada 菌を記載し、其の分布、形態を登載す。

臺灣樟害蟲菌 新渡戶稻雄, 澤田兼吉 臺灣總督府專賣局出版、大3(1914)

樟の病害 澤田兼吉 臺灣總督府專賣局出版、大3(1914)

樟の病害を解說す。

臺灣に於ける木材腐朽の事例 片山徹吉 臺灣總督府研究所報告 4 : 63—68, 大4(1915)

建築物木材の腐朽3例を報告す。

バラ護謨の病害菌 澤田兼吉 臺博會報 6, 25 : 159—162, 大5(1916)

Fomes semitostus Berk. の害に就て記す。

相思樹苗木の過度剪枝を戒む 澤田兼吉 臺博會報 9, 45 : 159—162, 大8(1919)

剪枝過度が相思樹に及ぼす害を說けり。

木麻黃の菌根接種に關する一二の例 金平亮三 臺灣總督府林業試驗場報告7(臺殖出版286) : 45—52, 大10(1921)

菌根を接種せる種子の發芽及び苗の生育を調査せる成績を報告す。

菌根を有する樹種 佐々木舜一 臺博會報 11, 53 : 78—79, 大10(1921)

恒春林業試驗場支場に於ける調査を記す。

新竹州南庄地方に於ける樟の病菌と害蟲に就て 矢田貝寬 臺林會報 26 : 46—51, 昭2(1927)

膏藥病、介殼蟲の寄生菌 *SphaeroStilbe Coccophila* 及び害蟲8種を報告す。

樟立枯病に就て 澤田兼吉 臺林會報 30 : 26—36, 昭3(1928)

Fomes lamoensis (Murr.) Sacc. et Trott. による樟立枯病に就て記す。

廣葉杉の葉祜病に就て 木村一雄 臺林會報 52 : 12—13, 昭5(1930)

北島君三氏の鑑定により病原菌を *Hypoderma* sp. とす。

紅檜の蓮根腐菌 沼田大學 林學會雜誌 13, 9 : 662—663, 昭 6 (1931)

ハンノキに寄生する Nectria 菌に就て 重松壽喬 シルビア 4, 2 : 1—18, 昭 8 (1933)

病徵及び病原菌の形態、菌の生理的諸性質及び寄生性等を記述し、本菌を *Nectoria vulgaris* Speg. に同定す。

紅檜の白色穴腐一名蓮根腐に關する研究 山本和太郎, 伊藤武夫 臺博會報 22, 123 : 433—442, 昭 7 (1932); 23, 124 : 44—54, 昭 8 (1933)

本病菌 *Stereum sulcatum* Burt (カサウロコタケ) に關する記載、生理的諸性質の研究、病理學的研究等を報告す。

造林木の病害に就て 伊藤武夫 臺山林 106 : 33—40, 昭10(1935)

紅檜の蓮根菌その他に就きて林業懇話會に於ける講演の大要。

Lophodermium pinastri 及び Hypoderma brachysporum に因る松類の葉ふるひ病 伊藤武夫 臺農林會報 1, 3 : 297—302, 昭11(1936)

兩菌による葉ふるひ病の記載、菌の觀察、被害狀況、防除法等を記述す。

私の實見した病害二、三に就いて 伊藤武夫 臺山林 117 : 162—166, 昭11(1936)

扁柏、紅檜、杉、臺灣赤松、琉球松、黑松等の病害を記す。

チーク林に於ける暴風被害に就て 野仲忠彥 臺山林 117 : 162—179, 昭11(1936)

昭和 9 年 7 月臺灣に襲來せる暴風の被害に就きて述ぶ。

臺灣の木材腐朽 I. センダンの蜂窩腐 山本和太郎 臺農林會報 1, 1 : 90—96, 昭11(1936)

腐朽狀態の觀察、腐朽菌の形態、分類及び培養基上に於ける腐朽菌の發育等に就き記載す。

扁柏の抹香腐に就て 山本和太郎, 伊藤武夫 植病會報 5, 4 : 293—307, 昭11(1936)

被害樹の觀察、病原菌の形態、分類學的考察、寄主植物並に分布、培養基上に於ける性質等に就き研究報告す。

相思樹銹病菌 Maravalia hyalospora (Saw.) Diet. の寄生性に關する研究 I. 平根誠一 臺博會報 27, 163 : 69—89, 昭12(1937)

假葉成熟度の銹菌に對する反應、胞子の發芽試驗、假葉に對する夏胞子及び冬胞子の反應等に就き報告す。

樟のウドンコ病とその天敵菌及シツソノキの銹病に就て (豫報) 伊藤武夫 臺山林 137 : 49—50, 昭12(1937)

林業懇和會に於ける講演要旨。

病害雜記 (1—3) 伊藤武夫 營林彙報 3, 3 : 26—27; 4 : 27—29; 5 : 40—41, 昭12(1937)

樟苗の病蟲による被害視察 久保田端三 營林彙報 3, 4 : 19—21, 昭12(1937)

シツソノキの銹病に就て 三宅勉 臺山林 138 : 1—10, 昭12(1937)

病狀、顯微鏡的觀察、病原菌、島內シッソノキの來歴と銹病の分布及び防除法に就き記述す。

數種の針葉樹の腐蝕に對する抵抗性に就て（講演要旨） 山本和太郎 植病會報 8, 1 : 78—81, 昭12(1937)

相思樹銹病菌胞子の發芽及發芽管の發達に及ぼす寄主假葉汁液の效果に就て（講演要旨）平根誠一 植病會報 8, 1 : 76—77, 昭13(1938)

相思樹銹病菌 Maravalia hyalospora (Saw.) Diet. の寄生性に關する研究 II. 平根誠一 臺博會報 28, 183 : 421—430, 昭13(1938); 29, 184•185 : 13—21, 昭14(1939)

本菌に對する假葉抽出液の作用、假葉壓出液の作用、假葉よりの分泌液の夏胞子に及ぼす作用、假葉表面に放置せる水滴の夏胞子に及ぼす作用等に就き報告す。

相思樹銹病菌 Maravalia hyalospora (Saw.) Diet. の寄生性に關する研究 III. 平根誠一 植病會報 10, 2•3 : 171—185, 昭15(1940)

本菌の夏胞子に對し反應を異にする假葉各部の細胞學的研究。

木麻黃海岸林の颱風被害と施業上の一考察 廣田貞雄 臺山林 176 : 16—23, 昭15(1940)

昭和15年9月及び10月臺灣に襲來せる颱風の記錄及び臺南州北港郡の海岸林に於ける被害狀況を記す。

木材の腐朽と木材防腐 臺灣山林會 臺山林 172 : 5—9, 昭15(1940)

木材防腐の必要性と防腐法に就て述ぶ。

VIII. 其他の病害

アルフアルフアの銹病 鈴木力治 臺農友會報 10 : 37—41, 明40(1907)

臺灣總督府農事試驗場牧草試作地のアルファルファに發生せる銹病菌（*Uromyces striatus* Schröt.）に就き病徵、病原菌の內部、外部形態、生活史に就て記述し、併せて豫防驅除法を記す。

桑の膏藥病の學名に就て 澤田兼吉 植雜 26, 304 : 101—105, 明45(1912)

桑の膏藥病菌の學名には *Helicobasidium Tanakae* Miyabe を採用するのが妥當なることを形態學的に證せり。

再び桑の膏藥病に就て 澤田兼吉 植雜 26, 310 : 307—311, 大1(1912)

桑の膏藥病菌に就て *Helicobasidium Tanakae* Miyabe と *Septobasidium pedicellatum* (Schw.) Pat. の何れを採用すべきかを論じ、兩者の形態上の差を述ぶ。

臺灣に於ける桑紫紋羽病並將來に對する處置 澤田兼吉 臺農事報 11, 8 : 609—619, 大6(1917)

IX. 菌　　類

稻銹病菌に就て 藤黑與三郎 臺博會報 2, 7 : 155—156, 大1(1912)

菰銹病菌 *Puccinia Zizaniae* SCHW. の病徴及び菌の形態に就て述ぶ。

On fungi parasitic on scale-insects found in Formosa. MIYABE, K., SAWADA, K. (宮部金吾, 澤田兼吉) 東北帝國大學農科大學紀要 5, 3 : 73—90, 大 2 (1913)

臺灣產蟲生菌 7 種を記載す。

北米合衆國菌類雜誌に揭載せられたる本島產菌蕈類 澤田兼吉 臺博會報 4, 16 : 154—155, 大 2 (1913)

Mycologia, Vol. 1, No. 4, 1909 に W. A. MURRILL の記載せる臺灣產 7 種の菌に就て又同誌、Vol. 1, No. 6 に同氏の記せるシヒタケの記事を紹介せり。

臺灣培養植物の寄生菌目錄 藤黑與三郎 植雜 28, 333 : 391—396; 334 : 423—426; 335 : 481—486, 大 3 (1914)

臺灣培養植物の寄生菌172種の寄主及び菌學名を表示す。

臺灣產銹菌目錄 藤黑與三郎 臺博會報 4, 19 附錄 : 1—12, 大 3 (1914)

本島に產する銹菌の目錄にして *Uromyces* 18 spp., *Puccinia* 47 spp., *Diorchidium* 1 sp., *Haparophragmium* 1 sp., *Ravenelia* 1 sp., *Kuehneola* 2 spp., *Cronartium* 1 sp., *Phakopsora* 4 spp., *Schroeteriaster* 2 spp., *Uredinopsis* 1 sp., *Uredo* 15 spp., *Aecidium* 12 spp. を記載す。

分生胞子時代より觀たる粉病菌科 澤田兼吉 臺農試特報 9 : 1—102, 大 3 (1914)

粉病菌科 (*Erysiphaceae*) の分類及び種類を記載す。

臺灣產介殼蟲の寄生菌 澤田兼吉 臺農試特報 9 : 103—148, 大 3 (1914)

現在迄に知られたるもの30餘種あるも猶10種の寄生菌を發見之を記載す。

ブレミア屬 (Bremia) の種類に就て 澤田兼吉 植雜 28, 326 : 74—84; 327 : 132—141, 大 3 (1914)

各種植物に寄生する *Bremia* 屬菌の形態、學名、寄主を記す。

家蠅の驅除に寄生菌の利用 澤田兼吉 臺農事報 8, 6 : 15—18, 大 3 (1914)

Empusa Mussae (FR.) COHN 菌の形態、家蠅に對する寄生性に就て考察を加へ、本菌の培養を行ひ、胞子形成に成功すれば家蠅の驅除に利用し得ることを指摘す。

日本產蟲生菌の珍種 澤田兼吉 植雜 28, 330 : 270—281; 331 : 307—314, 大 3 (1914)

臺灣及び內地にて發見せる蟲生菌8種につき形態を記す。

臺灣菌類資料(1—4) 澤田兼吉 臺博會報 4, 15 : 71—75; 16 : 133—139; 17 : 178—184; 19 : 256—263, 大 3 (1914)

桃園採集旅行に於ける採集品目錄 採集病菌類 澤田兼吉, 藤黑與三郎 臺博會報 4, 18 : 235—236, 大 3 (1914)

植物寄生菌13種を記す。

Beitrag zur kenntnis der parasitischen pilze der Insel Formosa. SYDOW, H.,

Sydow, P. Annales Mycologici, **7**, 2 : 106—112, 1914(大3)

臺灣產菌類50種（內新種14）を報告す。

Cystotheca 屬は存立せしむべきや否や 澤田兼吉 札幌博會報 **5**, 3 : 204—209, 大4 (1915)

Cystotheca 屬は粉病菌科に屬する *Sphaerotheca* 屬の異名となすべきことを論す。

松蛄蟖驅除に寄生菌の利用 澤田兼吉 臺農事報 **9**, 5 : 638—646, 大4 (1915)

松蛄蟖の寄生菌(白殭病)に就て、胞子發芽試驗、培養接種試驗、他の昆蟲に對する接種試驗、病原菌 (*Botrytis Bassiana* Bals.)、病菌供用法に就て記述す。

臺灣菌類資料 (5—11) 澤田兼吉 臺博會報 **5**, 20 : 14—20; 22 : 78—85, 大4 (1915); **6**, 23 : 27—35; 24 : 77—84; 25 : 125—135; 26 : 174—180; 27•28 : 241—255, 大5 (1916)

茯苓 澤田兼吉 臺博會報 **6**, 25 : 157—158, 大5 (1916)

茯苓を解說す。

臺灣菌類資料 (12—17) 澤田兼吉 臺博會報 **7**, 29 : 1—9; 30 : 48—54; 32 : 128—135, 大6 (1917); **8**, 34 : 11—18; 35 : 47—54, 39 : 171—177, 大7 (1918)

臺灣產菌蕈類 堀川安市 臺博會報 **8**, 37 : 136, 大7 (1918)

烏來にて採集せる菌蕈8種を列記す。

能高方面にて採集せし菌類 金平亮三 臺博會報 **8**, 36 : 88, 大7 (1918)

硬質菌蕈3種を記す。

臺灣の茸類 金平亮三 臺博會報 **8**, 37 : 135, 大7 (1918)

硬質菌蕈6種を記す。

新竹廳テンタナ方面にて採集せし菌類 金平亮三 臺博會報 **8**, 36 : 88, 大7 (1918)

16種の硬質菌蕈を列記す。

臺灣の菌蕈類 澤田兼吉 臺博會報 **8**, 35 : 59—60, 大7 (1918)

安田篤氏により發表せられたる酒井菊雄氏採集菌蕈15種を記す。

臺灣產菌類調查報告 第1編 澤田兼吉 臺農試特報 19 : 695頁, 大8 (1919)

臺灣產菌類268種を報告す。

臺灣菌類資料 (18—23) 澤田兼吉 臺博會報 **9**, 40 : 1—9; 41 : 59—70; 44 : 131—139, 大8 (1919); **10**, 51 : 263—270, 大9 (1920); **11**, 52 : 38—44; 54 : 86—94, 大10(1921)

臺灣產菌類調查報告 第2編 澤田兼吉 臺中研農報告 2 : 172頁, 大11(1922)

臺灣產菌類72種を報告す。

臺灣菌類資料 (24) 澤田兼吉 臺博會報 **12**, 62 : 77—84, 大11(1922)

廣東產菌類 澤田兼吉 臺博會報 **12**, 61 : 76, 大11(1922)

廣東產菌類3種を報告す。

臺灣產茸類　金平亮三　臺博會報 13, 64 : 15—16, 大12(1923)

硬質蕈菌10種を報告す。

臺灣菌類資料 (25—26)　澤田兼吉　臺博會報　15, 78 : 81—88; 79•80 : 201—207, 大14 (1935)

分生胞子時代より觀たる臺灣粉病菌屬　澤田兼吉　臺中研農報告 24 : 55頁, 昭2(1927)

粉病菌屬 *Erysiphe* の種類に關する研究を行ひ種類を決定せり。

臺灣料理に用ふる竹笙に就て　澤田兼吉　臺博會報 17, 90 : 233—237, 昭2(1927)

臺灣料理に用ふる竹笙はキヌガサタケに近似のものならんと述ぶ。

越年性胞子の形成及發芽を促進せしむる一方法　澤田兼吉　臺博會報 17, 89 : 197—200, 昭2(1927)

有性胞子及び菌核の形成及び其の發芽に關する實驗を述ぶ。

臺灣產菌類調査報告　第3編　澤田兼吉　臺中研農報告 27 : 62頁, 昭2(1927)

臺灣產菌類21種を報告す。

臺灣產菌類調査報告　第4編　澤田兼吉　臺中研農報告 35 : 123頁, 昭3(1928)

臺灣產菌類148種を報告す。

臺灣菌類資料 (27)　澤田兼吉　臺博會報 19, 100 : 31—38, 昭4(1929)

On the perfect stage of Sclerotium Rolfsii Sacc. produced on culture media. Goto, K. (後藤和夫) 熱農會誌 2, 2 : 165—173, 昭5(1930)

本菌の形態、分類的考察よりして Herter の *Corticium centrifugum* に一致し、又 Bresadola の *Corticium centrifugum* に該當すべきものなるべしと結論せり。

分生胞子時代より觀たる臺灣產針球菌屬　澤田兼吉　臺中研農報告 49, 95頁, 昭5(1930)

針球菌屬 *Phyllactinia* に就て既往の分類學的研究、世界に於ける寄主植物、同屬菌の性質を述べ臺灣に於て發見されたる本屬菌の形態、學名、分布等を詳述す。

臺灣の食用菌類　澤田兼吉　臺博會報 20, 111 : 399—406, 昭5(1930)

菌蕈類の解說及び臺灣產食用菌の主なるものを紹介す。

スエヒロタケに就て　水戸野武夫　シルビア 2, 3 : 101—117, 昭6(1931)

スエヒロタケの形態學的研究、培養試驗、接種試驗等の結果を報告す。

臺灣產菌類調査報告　第5編　澤田兼吉　臺中研農報告 51 : 131頁, 昭6(1931)

臺灣產菌類131種を報告す。

臺灣菌類資料 (28—29) 澤田兼吉　臺博會報 21, 115 : 227—235; 117 : 330—338, 昭6(1931)

臺灣產菌類目錄　澤田兼吉　臺中研農出版 : 103頁, 昭6(1931)

澤田兼吉著臺灣產菌類調査報告第1—5編及び中澤亮治著臺灣產粘菌目錄(I)の索引。

Physiology and parasitology of the fungi generally referred to as Hypo-

chnus Sasakii Shirai. I. Differentiation of the strains by means of hyphal fusion and culture in differential media. MATSUMOTO, T., YAMAMOTO, W., HIRANE, S. (松本巍, 山本和太郎, 平根誠一) 熱農會誌 4, 3 : 370—388, 昭 7 (1932)

Hypochnus Sasakii の種々なる植物より得たる19系統に就て形態上の差異、各系統菌絲間の癒合の成否、培養上の性質の差等を誌す。

Sclerotium Rolfsii Sacc. in perfect stage. I. Some correlation between sporation and cultural characteristics. GOTO, K. (後藤和夫) 臺博會報 23, 124 : 37—43, 昭 8 (1933)

培養基上の諸性質及び菌核の諸性質に就き實驗結果を報告す。

Sclerotium Rolfsii Sacc. in perfect stage. II. Studies on Sclerotium Rolfsii on foreign origin in comparison with some strains of Formosa. GOTO, K. (後藤和夫) 熱農會誌 5, 4 : 374—382, 昭 8 (1933)

外國産及び臺灣産菌系統に就て胞子形成狀況、胞子形成と培養基上の性質との相關關係、菌絲の性質により分つた群の分布地に就ての考察等を記す。

Sclerotium Rolfsii の胞子形成に關する其後の研究 (講演要旨) 後藤和夫 植病會報 2, 6 : 544—545, 昭 8 (1933)

Uredinales collected in Formosa I. HIRATSUKA, N., HASHIOKA, Y. (平塚直秀, 橋岡良夫) 鳥取農學會報 4, 3 : 156—165, 昭 8 (1933)

臺灣産銹菌60種を報告す。

Physiology and parasitism of the fungi generally referred to as Hypochnus Sasakii Shirai. II. Temperature and humidity relations. MATSUMOTO, T., YAMAMOTO, W., HIRANE, S. (松本巍, 山本和太郎, 平根誠一) 熱農會誌 5, 3 : 332—345, 昭 8 (1933)

多數の植物より得たる本菌系統を用ひ各種溫度及び濕度下に於ける菌の生育生理に就き述ぶ。

Physiology and parasitism of the fungi generally referred to as Hypochnus Sasakii Shirai. III. Histological studies in the infection by the fungus. MATSUMOTO, T., HIRANE, S. (松本巍, 平根誠一) 熱農會誌 5, 4 : 367—373, 昭 8 (1933)

樟、ホテイサウ、煙草等に本菌を接種し組織學的研究を行ふ。

臺灣産菌類調査報告 第6編 澤田兼吉 臺中研農報告 61 : 99頁, 昭 8 (1933)

臺灣産菌類87種を報告す。

Some remarks on the fungus Uromyces hyalosporus Sawada. HIRANE, S. (平根誠一) 熱農會誌 6, 4 : 683—686, 昭 9 (1934)

本菌に關し、澤田氏が *Uromyces hyalosporus* SAW. なる新種として發表した際の菌の記載の數箇所に誤謬を認めたので、更に全般にわたり菌の形態を記載し、學名は *Maravalia hyalo-*

spora (SAWADA) DIET. を採用する旨を記す。

Some remarks on the taxonomy of the fungus Hypochnus Sasakii Shirai. MATSUMOTO, T. (松本巍) 札幌博會報 **13**, 3 : 113—120, 昭 9 (1934)

種々の試驗結果よりして *Hypochnus Sasakii* より *Corticium Sasakii* を用ふるが妥當たりと述ぶ。

Observations on spore discharge in perfect stage of Sclerotium Rolfsii Sacc. GOTO, K. (後藤和夫) 熱農會誌 **6**, 3 : 609—618, 昭 9 (1934)

Sclerotium Rolfsii の胞子の放出に就てその起る時刻、溫度と放出の關係、光線との關係、濕度との關係等に就き、特殊裝置を用ひて實驗せる結果を述ぶ。

臺灣菌類資料 (30—32) 澤田兼吉 臺博會報 **24**, 131 : 123—129, 134 : 298—307; 135 : 450—460, 昭 9 (1934)

Uredinales collected in Formosa II-IV. HIRATSUKA, N., HASHIOKA, Y. (平塚直秀, 橋岡良夫) 植雜 **48**, 568 : 233—240, 昭 9 (1934); **49**, 577 : 19—26; 584 : 520—524, 昭10(1935)

臺灣產銹菌夫々47種、33種、20種を報告す。

Cercospora from Formosa I. YAMAMOTO, W. (山本和太郎) 札幌博會報 **13**, 3 : 139—143, 昭 9 (1934)

臺灣產 *Cercospora* 9 種を報告す。

Cercospora-Arten aus Taiwan (Formosa) II. YAMAMOTO, W. (山本和太郎) 熱農會誌 **6**, 3 : 599—618, 昭 9 (1934)

臺灣產 *Cercospora* 18種を報告す。

Sclerotium Rolfsii Sacc. in perfect stage. III. Variation in the cultures originated from basidiospores. GOTO, K. (後藤和夫) 熱農會誌 **7**, 4 : 331—345, 昭10(1935)

擔胞子より分離せる菌相互間に於ける各種性質の變異に就て述ぶ。

Uredinales collected in Formosa V. HIRATSUKA, N., HASHIOKA, Y. (平塚直秀, 橋岡良夫) 鳥取農學會報 **5**, 3 : 237—244, 昭10(1935)

臺灣產銹菌25種を報告す。

Hypochnus Sasakii Shirai in comparison with Corticium Stevensii Burt. and Corticium koleroga (Cooke) v. Hohn. MATSUMOTO, T., YAMAMOTO, W. (松本巍, 山本和太郎) 臺博會報 **25**, 140 : 160—175, 昭10(1935)

Corticium Sasakii, *Corticium Stevensii*, *Corticium koleroga* の3菌に就て培養基上の性質、溫度に對する反應、菌絲菌核の形態、病原性等を比較研究し其の異同を論ず。

臺灣菌類資料 (33—39) 澤田兼吉 臺博會報 **25**, 136•139 : 42—52; 140 : 132—139; 141 : 176—183; 142 : 232—239; 143 : 255—260; 145 : 331—338; 146 : 420—428, 昭10(1935)

茭白筍に就て 山本和太郎 科學臺灣 **3**, 1 : 1—3, 昭10(1935)

蕉黑穗病菌 *Ustilago esculenta* の寄生狀態及び分布に就きて記す。

Sclerotium Rolfsii Sacc. in perfect stage. IV. Cytological observations. GOTO, K. (後藤和夫) 植病會報 **6**, 2 : 101—118, 昭11(1936)

本菌の完全時代 (*Corticium*) を細胞學的に觀察したる結果を報告す。

熱帶に於ける粉病菌の越年 橋岡良夫 科學 **6**, 8 : 335, 昭11(1936)

臺灣に於ける胡瓜粉病菌に就ての觀察結果を記す。

菌類空胞の生體染色の一例 橋岡良夫 植研雜誌 **12**, 9 : 683—686, 昭11(1936)

胡瓜粉病菌に於ける中性赤の滴狀分離に就き述ぶ。

Sphaerotheca fuliginea に於ける寄主の制限 (講演要旨) 橋岡良夫 植病會報 **6**, 2 : 191, 昭11(1936)

白絹病菌の寄生 (綜合抄錄) 桐生知次郎 臺農研會報 **14**, 2 : 65—67, 昭11(1936)

臺灣菌類資料 (40) 澤田兼吉 臺博會報 **26**, 153 : 262—268, 昭11(1936)

Cercospora-Arten aus Taiwan (Formosa) III. YAMAMOTO, W. (山本和太郎) 臺博會報 **26**, 154 : 279—286, 昭11(1936)

臺灣產 *Cercospora* 16種を報告す。

Relation of temperature and humidity to Sphaerotheca fuliginea (Schlecht.) Poll. with special reference to germination viability and infection. HASHIOKA, Y. (橋岡良夫) 臺博會報 **27**, 165 : 129—145, 昭12(1937)

臺灣に於ける *Sphaerotheca fuliginea* (SCHLECHT.) POLL. 菌の發生と環境、特に溫度及び濕度の影響に就て胡瓜苗を用ひて實驗したる結果を報告す。

Uredinales collected in Formosa VI. HIRATSUKA, N., HASHIOKA, Y. (平塚直秀, 橋岡良夫) 植雜 **51**, 602 : 41—47, 昭12(1937)

臺灣產銹菌45種を報告す。

新高山八通關秀姑巒附近菌蕈管見 貴田武捷 臺農林會報 **2**, 3 : 360—366, 昭12(1937)

表記の高山地帶にて採集せる多數の菌蕈を記す。

兵庫縣產菌蕈に就いて 貴田武捷 臺農林會報 **2**, 3 : 340—359, 昭12(1937)

兵庫縣產菌蕈200餘種を列記す。

Sclerotium Rolfsii Sacc. in perfect stage. V. Inoculation studies with natural strains, basidiospores, single basidiospore isolates, and some F_1, F_2, and back cross strains obtained by mating. GOTO, K. (後藤和夫) 植病會報 **7**, 3•4 : 203—220, 昭13(1938)

自然菌の擔胞子、單擔胞子培養菌、交配により得たる F_1, F_2 及び戻雜種等による接種に就

きて述ぶ。

スフエロテーカ、フリギネア菌の分化　橋岡良夫　植病會報 8, 2 : 113—123, 昭13(1938)

數種の植物上に發生せる菌の分生胞子の大さを測定し、形態の異同を檢討し、分生胞子を接種原とせる接種試驗に依り寄生性の分化を實驗せり。

The mode of infection by Sphaerotheca fuliginea (Schlecht.) Poll. in susceptible, resistant and immune plants. HASHIOKA, Y. (橋岡良夫) 臺博會報 28, 174 : 47—60, 昭13(1938)

胡瓜白澁病菌の分生胞子を，胡瓜を始めウリ科植物及び他の科に屬する多數の植物に接種試驗を行ひ、發芽侵入現象を觀察し、併せて抵抗性の問題に就き論及す。

白殭菌による臺灣松蛅蟖蛾の生物的防除法の效果　水戸野武夫　臺山林 148 : 98—103, 昭13 (1938)

Botrytis bassiana BALY の接種試驗の結果を報告す。

生物學的防除の一手段としてのトリコデルマ菌の利用に對する再檢討　松本巍　熱農會誌 11, 4 : 322—326, 昭14(1939)

バラの根部から分離した *Trichoderma* をバラに接種した處 2,3 週間して明かに病徴を呈した。拮抗作用があるからとて、直ちに全般的に生物學的防除の手段として應用しようとする事は危險が伴ふものであらうと考へらる。之に關し實驗結果を報告す。

Formosan Meliolineae I-II. YAMAMOTO, W. (山本和太郎) 臺博會報 30, 200•201 : 148—158; 206•207 : 414—425, 昭15(1940)

臺灣產煤病菌43種及び 2 變種を報告す。

Materials for a rust-flora of Formosa. HIRATSUKA. N. (平塚直秀) 植雜 55, 654 : 267—273, 昭16(1941)

臺灣菌類資料 (41)　澤田兼吉　臺博會報 31, 213 : 261—267, 昭16(1941)

Formosan Meliolineae III-VI. YAMAMOTO, W. (山本和太郎) 臺博會報 31, 208 : 14—30; 209 : 47—60; 210 : 125—137; 212 : 216—231, 昭16(1941)

臺灣產煤病菌61種を報告す。

Perisporiaceae 煤病菌の寄生並に腐生　山本和太郎　熱農會誌 13, 4 : 307—313, 昭16 (1941); 14, 1 : 30—41, 昭17(1942)

臺灣產 *Perisporiaceae* の30種類に就き其の寄生局部を組織學的に觀察し、本菌の發育と昆蟲との關係、榮養分攝取法に就ての考察等に就き研究報告す。

臺灣產菌類調查報告　第7編　澤田兼吉　臺農試報告 83 : 211頁, 昭17(1942)

臺灣產菌類338種を報告す。

臺灣菌類資料 (42—49)　澤田兼吉　臺博會報 32, 220 : 21—30; 222 : 125—131; 223 : 176—

179; 224 : 221—229; 225 : 247—251; 227 : 289—293; 230 : 336—340; 231 : 368—372, 昭17 (1942)

臺灣の菌類（I. II）澤田兼吉　臺農事報 38, 9 : 693—703; 10 : 774—782, 昭17(1942)

臺灣産菌類33種を記載す。

黑色天鵞絨狀煤病菌の數種に就て　山本和太郎　熱農會誌 14, 2 : 92—107, 昭17(1942)

本菌の不完全時代の胞子型、文獻に現はれたる本煤病菌の不完全時代、完全時代の胞子型、完全及び不完全時代の子實體に關する考察、形態並に分類等に就き研究報告す。

X. 細菌及びバクテリオファーヂュ

Studies on some phytopathogenic bacteria with special reference to agglutination and complement fixation. Matsumoto, T.（松本巍）熱農會誌 1, 2 : 155—171, 昭 4 (1929)

植物病害を起す各種細菌中、其の外觀及び培養的性質の良く似て居るものを血清反應、殊に凝集反應、凝集素吸收及び補體結合に依る鑑別を行ふ。

Further studies on some putrefactive phytopathogenic bacteria by agglutinin absorption. Matsumoto, T.（松本巍）熱農會誌 2, 1 : 16—25, 昭 5 (1930)

甜瓜、百日草及び萊菔から分離した細菌が類縁關係を持つて居るか否かを凝集素吸收に依り比較試驗を行つた結果を報告す。

On the relationship between the serological reaction and other biological character of some putrefactive phytopathogenic bacteria. Matsumoto, T., Somazawa, K.（松本巍, 杣澤幸悦）熱農會誌 3, 4 : 317—336, 昭 6 (1931)

病原細菌の血清學的反應と生理的各種性質との關係に就て述ぶ。

Bacteriophage in relation to Bacterium Solanacearum. I. Temperature relation, specificity, and serological reaction. Matsumoto, T., Okabe, N.（松本巍, 岡部德夫）熱農會誌 7, 2 : 130—138, 昭10(1935)

蕃茄青枯病菌より分離せるファーヂュの溫度關係、溶菌作用の特異性並にその血清反應に就きて報告す。

Bacterium Setariae の變異に就いて（講演要旨）岡部德夫　植病會報 6, 1 : 94—95, 昭11(1936)

柑橘潰瘍病菌のバクテリオファーヂュに關する研究（豫報）松本巍, 岡部德夫　農及園 12, 8 : 2055—2059, 昭12(1937)

柑橘潰瘍病菌 *Bacterium Citri* (Hasse) Doidge のバクテリオファーヂュ分離の方法、特殊性、發育と溫度との關係及び柑橘潰瘍病菌の土壤中に於ける運命等に就き記す。

Bacteriophage in relation to Bacterium Solanacearum. II. Further studies on the phage and antiphagic serum. MATSUMOTO, T., OKABE, N. (松本巍, 岡部德夫) 熱農會誌 9, 2 : 205—213, 昭12(1937)

蕃茄青枯病菌より分離せるフアーヂユ及び抗フアーヂユ血清に關する研究。

Bacterium Solanacearum の變異に關する研究 (豫報) 岡部德夫 植病會報 7, 2 : 95—104, 昭12(1937)

被害植物組織内に於ける菌型、人工培養基上に於ける變異、各型菌の形態的性質等に就き研究報告す。

Bacteriophage in ralation to Bacterium Malvacearum E. F. S. I. Preliminary study. MATSUMOTO, T., HUZIOKA, Y. (松本巍, 藤岡保夫) 植病會報 7, 3•4 : 193—202, 昭13(1938)

棉角斑病罹病葉よりファーヂュを分離し、溶菌力と温度との關係等に就き記述す。

Bacteriophage specific for Bacillus aroideae. MATSUMOTO, T., SAWADA, Y. (松本巍, 澤田榕三) 臺博會報 28, 178 : 247—256, 昭13(1938)

Bacillus aroideae TOWNSEND のバクテリオファーヂュに就て各種生理實驗の結果を示す。

棉角斑病細菌のバクテリオフアーヂユに關する研究 II. 變異菌とファーヂュの關係に就て 岡部德夫 植病會報 8, 3 : 230—246, 昭13(1938)

本病菌の變異、變異菌に對するファーヂュの作用、Elemental phage に關する研究、ファーヂュ抵抗性菌の聚落形等に就きて述ぶ。

植物に於ける寄生菌のバクテリオフアーヂユ 松本巍 病蟲雜 26, 1 : 21—25; 2 : 100—105; 3 : 155—158, 昭14(1939)

マメ科植物の根瘤菌、軟化腐敗病菌、根頭癌腫病菌、蕃茄又は煙草青枯病菌、棉角斑病菌、柑橘潰瘍病菌、其他のファーヂュに就き記載す。

Phage-produced resistant strains of Bacillus aroideae. I. Resistant strains appeared in culture solutions. MATSUMOTO, T. (松本巍) 臺博會報 29, 195 : 317—338, 昭14(1939)

培養液中に現れたファーヂュ抵抗性の菌に就きて述ぶ。

Phage-produced resistant strains of Bacillus aroideae. II. The behaviour of the organisms in phage-inoculated sand cultures. MATSUMOTO, T. (松本巍) 臺博會報 30, 200•201 : 89—98, 昭15(1940)

ファーヂュを接種せる砂耕培養に於ける細菌の行動に就きて述ぶ。

蕃茄青枯病細菌のバクテリオフアーヂに關する研究 (豫報) 松本巍, 岡部德夫 病蟲雜 22, 1 : 15—21, 昭15(1935)

ファーデュ分離の方法、温度と發育の關係に就て記述す。

Phage-produced resistant strains of Bacillus aroideae. III. Culture in soils and host plants. MATSUMOTO, T. (松本巍) 臺博會報 31, 211 : 145—154, 昭16(1941)

土壤及び大根に本菌をファーデュと共に接種した場合のファーデュ感受性の變化に就きて述ぶ。

植物の病原細菌に於ける變異 岡部德夫 臺農林會報 5, 2 : 184—200, 昭16(1941)

細菌の性狀と其變異、一般細菌に見出される變異の概略、植物の各種病原細菌に於ける變異に就き述ぶ。

Bact. Solanacearum **に關する二、三の考察** 岡部德夫 臺農專報告 3 : 50—65, 昭17 (1942)

病徵の2樣性、病徵の2樣性と集落變異との關係等に就き述ぶ。

粟褐條病菌 Bact. Setariae **に於ける集落變異の研究補遺** 岡部德夫 臺農專報告 3 : 35—49, 昭14(1942)

集落型、各集落型菌の形態及び生物學的性狀、病原性、集落型菌の變異性、集落を主とする變異等に就き述ぶ。

植物病原細菌に於ける變異（續） 岡部德夫 臺農林會報 6, 1 : 21—47, 昭17(1942)

植物病原細菌の變異に就き文献により紹介す。

XI. ヴィールス

Antigenic properties of tobacco mosaic juice. MATSUMOTO, T. (松本巍) 熱農會誌 1, 3 : 291—300, 昭5(1930)

煙草モザイック汁液を兎の血管に注射すると、同血淸中に抗體を形成する。この沈澱素と上澄液とを以つて實驗したる結果を報告す。

Immunological studies of mosaic diseases. I. Effect of formolization, trypsinization, and heat-inactivation on the antigenic properties of tobacco mosaic juice. MATSUMOTO, T., SOMAZAWA, K. (松本巍, 杣澤幸悅) 熱農會誌 2, 3 : 223—234, 昭5(1930); 3, 1 : 24—33, 昭6(1931)

煙草モザイック汁液の抗元性に對するホルマリン、トリプシン及び加熱の影響に就て記す。

Immunological studies of mosaic diseases. II. Distribution of antigenic substance of tobacco mosaic in different parts of host plants. MATSUMOTO, T., SOMAZAWA, K. (松本巍, 杣澤幸悅) 熱農會誌 4, 2 : 161—168, 昭7(1932)

煙草モザイックの抗元性物の植物各部に於ける分布に就て述ぶ。

Immunological studies of masaic diseases. III. Further studies on the distribution of antigenic substance of tobacco mosaic in different parts of host plants.

MATSUMOTO, T., SOMAZAWA, K. (松本巍, 杣澤幸悦) 熱農會誌 **5**, 1 : 37—43, 昭 8 (1933)

煙草モザイックの抗元性物の植物各部に於ける分布に就て述ぶ。

Immunological studies of mosaic diseases. IV. Effects of acetone, lead sub-acetate, barium hydroxide, aluminium hydroxide, trypsin, and soils on the antigenic property of tobacco mosaic ice. MATSUMOTO, T., SOMAZAWA, K. (松本巍, 杣澤幸悦) 熱農會誌 **6**, 4 : 671—682, 昭 9 (1934)

煙草モザイック被害株の浸出液を上記薬品にて處理し、又土壌に注加して濾液を取り、血清反應及び接種試驗を行ひたる結果を報告す。

Immunological studies of mosaic diseases. V. Micro-serological tests as means of detection the virus in a small area of mosaic tobacco plants. MATSUMOTO, T., HIRANE, S. (松本巍, 平根誠一) 熱農會誌 **7**, 4 : 346—350, 昭10(1935)

血清反應によるモザイック罹病煙草の小部分に於るヴィールスの檢知に就きて述ぶ。

畸形花を生ずる煙草モザイツク病原體の血清學的分析 松本巍 臺博會報 **26**, 153 : 258—261, 昭11(1936)

煙草モザイック病が數種のヴィールスの混合感染に依つて起る場合、所謂合併症の識別に血清反應利用が特に役立つ1例を記載す。

血清反應による植物濾過性病原體 (講演要旨) 松本巍 植病會報 **6**, 1 : 95—96, 昭11(1936)

Some serological studies on plant viruses and bacteriophage. MATSUMOTO, T. (松本巍) Second International Congress for Microbiology, Report of Proceedings, 1936(昭11)

第2回萬國微生物會議に於ける講演要旨。

畸形花を生ずる煙草モザイツクの血清學的研究(續報) 松本巍 農及園 **12**, 7 : 1817—1821, 昭12(1937)

畸形花を生ずる煙草モザイックが煙草モザイックと馬鈴薯モザイックとの混合疾患である所から、是等を純粹の單獨ヴィールスにするため、二つの實驗を行ひ、之の結果を報告す。

ヴアイラス病の新生と突然變異 松本巍 病蟲雜 **25**, 1 : 14—18, 昭13(1938)

ヴィールスの接種試驗及び分離試驗よりヴィールス病の新生と突然變異とに關し述ぶ。

XII. 薬　　劑

農作物病害の藥劑的豫防法 鈴木力治 臺農友會報 13 : 36—43, 明40(1907); 14 : 26—36; 15 : 37—45, 明41(1908); 臺農事報 16 : 32—34; 19 : 20—22; 21 : 20—22; 32 : 12—16, 明41(1908)

農作物病害の藥劑による豫防法の理論を說き、各種ボルドウ液の處法、標準液(米國式、獨國式、日本式)製法を說明し、使用上の注意を述ぶ。

玄米殺菌による無菌苗培養に關する實驗 黒澤英一 臺博會報 18, 94：65—77, 昭3(1928)

玄米の發芽に及ぼす藥劑（昇汞水、酒精、昇汞酒精液）の影響を檢し、之等の方法によつて殺菌した各品種の發芽狀況を誌す。

植物病害防除劑のメートル法呼稱に就て 澤田兼吉 臺農事報 27, 3：228—237, 昭6(1931)

石灰ボルドウ液、銅石鹼液のメートル法による方式、稀釋液の呼稱を記す。

石灰ボルドウ合劑に就て 熱帶園藝 1, 12：689—691, 昭6(1931)

石灰ボルドウ液の製法及び使用法を記述す。

農業藥劑最高販賣價格 臺殖農出版：7頁, 昭15(1940)

農林省告示第55號及び第127號により指定されたる農藥の最高販賣價格。

農業藥品協定販賣價格表 臺殖農出版：13頁, 昭16(1941)

臺北州告示第339號、第443號及び第23號により認可せられたる臺北州下藥品協定價格より農藥を拔萃す。

農用藥劑辭典 三輪勇四郎 臺農試病理昆蟲科出版（謄寫）：176頁, 昭16(1941)

農業藥劑の規格 臺殖農出版：16頁, 昭17(1942)

農林省により統制せられたる農藥の種目と規格との概要を摘錄す。

XIII. 其　　他

マメダヲシ 藤黒與三郎 臺博會報 5, 20：27—28, 大4(1915)

マメダヲシ（*Cuscuta chinensis* Lam.）の寄主植物名を記せり。

臺灣に於ける根瘤蟲の寄主植物 澤田兼吉 臺博會報 14, 72：16—24, 大13(1924)

Heterodera radicicola Greef. (*H. marioni* (Cornu) Goodey) の臺灣に於ける寄主植物41科115種を列擧す。

植物檢查事業に對する私の信念 三宅勉 熱帶園藝 2, 5：257—262, 昭7(1932)

植物檢疫の目的、海外の現狀、臺灣の現狀、特に注意を拂ふべき輸入植物に就て述ぶ。

Crotalaria juncea L. の鋤込後に於ける土壤微生物の數量的調查 桐生知大郎, 秋山健吉 臺糖試報告 4：163—171, 昭12(1937)

ナンバンギセルの寄生植物（綜合抄錄） 桐生知大郎 臺農研會報 14, 2：67—69, 昭11(1936)

輸移入植物種子の大量消毒 三坂和英 臺農會報 1, 2：53—57, 昭14(1939)

基隆に設置せる種子消毒裝置及び昭和15年度小麥及び亞麻種子消毒の概略を述ぶ。

農業生產の安定 堀內吉彥 臺農會報 3, 2：2—19, 昭16(1941)

農業生產の安定は病蟲害の驅除豫防にある旨を强調し、之に關し實例を擧げ講演したるものなり。

植物檢疫論 三坂和英 臺農會報 4, 7：2—10, 昭17(1942)

侵入病害蟲の恐るべきものなる事を實例を擧げて述べ、平時戰時を問はず忽にすべからざることを强調す。

著者名索引

著者名　　頁

A

足立 仁……9
秋山健吉……39
東 元樹……15

G

後藤和夫……23, 24, 31
Goto, K.……23, 24, 30, 31, 32, 33

H

橋岡良夫……3, 6, 7, 20, 21, 33, 34
Hashioka, Y.……31, 32, 33, 34
逸見武雄……21
Hemmi, T.……14
平井篤造……21
平根誠一……15, 17, 26, 27
Hirane, S.……24, 31, 38
Hiratsuka, N.……31, 32, 33, 34
廣田貞雄……27
堀川安市……29
福壽亮三……9
藤黒與三郎……1, 2, 4, 13, 14, 22, 24, 27, 28, 39
Huzioka, Y.……36

I

石丸 謙……17
伊藤誠哉……6
Ito, S.……14
伊藤武夫……26

K

金平亮三……25, 29, 30
金子昌太郎……8
片山懐吉……25
加藤謙一……21
川上瀧彌……1, 7, 8, 13, 14, 17
萱島秀樹……11, 12, 13
桐生知次郎……9, 10, 11, 12, 33, 39

著者名　　頁

木村一雄……25
貴田武捷……33
小平武夫……20
久保田燦三……26
Kubata, S.……14
黒澤英一……4, 5, 6, 7, 13, 18, 19, 22, 23, 24, 39

M

松本 巍……2, 3, 10, 15, 16, 17, 24, 34, 35, 36, 38
Matsumoto, T.……3, 9, 15, 16, 17, 24, 31, 32, 35, 36, 37, 38
三坂和英……39
水戸野武夫……30, 34
三輪勇四郎……39
Miyabe, K.……28
三宅 勉……2, 8, 9, 10, 13, 20, 21, 22, 26, 39
森山鞆次郎……6

N

新渡部稲雄……25
野仲忠彦……26
沼田大學……26

O

小川正行……6, 7, 14
岡部徳夫……35, 36, 37
Okabe, N.……3, 24, 35, 36
岡田萬八……8, 10, 11, 12, 13
岡出幸生……13
小野佐雄……8

R

廖 學義……20

S

櫻井芳次郎……20
佐々木舜一……25

佐　藤　　保……………………………20
澤　田　兼　吉………1, 2, 4, 5, 6, 13, 14, 15,
17, 18, 19, 21, 23, 24, 25, 27,
28, 29, 30, 31, 32, 34, 35, 39
Sawada, K.……………………14, 15, 25, 28
Sawada, Y.……………………………36
莊保忠三郎…………………………… 7
Shoho, C.……………………………7
重　松　壽　喬…………………………26
新竹州農會……………………………20
新竹州立農事試驗場……………………… 5
Somazawa, K.………………35, 37, 38
末　田　平　七………………4, 5, 18, 20
鈴　木　正　男………………………… 9
鈴　木　力　治……………1, 3, 14, 27, 38
Sydow, H.……………………………28
Sydow, P.……………………………28

T

田　川　義　輝………………………… 7
臺北州農會……………………………20
臺中州農會……………………………19
臺灣山林會……………………………27
臺灣總督府民政部殖產局………………… 8
臺灣總督府殖產局農務課……………2, 7, 39
高　橋　秀　雄……………………12, 13
高　橋　良　一…………………………22
田中長三郎……………………19, 20
楯　岡　良　介…………………………15
Tateoka, R.……………………………15
陳　　其　　昌………………7, 13, 24
德　永　芳　雄………………6, 20, 22
栃　內　吉　彦…………………………39
鶴　仲　壽　美………………………… 8

W

渡　邊　正　一…………………… 21, 22

Y

山岸喜久男…………………………… 9
山本和太郎………10, 20, 22, 26, 27, 33,
34, 35
Yamamoto, W.…………9, 31, 32, 33, 34
矢　　野　　武………………………… 7
安　　川　　榮………………………… 8
矢　田　貝　寬…………………………25
鋤　富　忠　夫……………………20, 21
吉　　原　　操…………………………22

昭和十八年十一月二十二日印刷
昭和十八年十一月二十六日發行

臺灣總督府農業試驗所

臺北市榮町一丁目二十八番地
印刷人　中村誠德

臺北市榮町一丁目二十七番地
印刷所　松浦屋印刷部